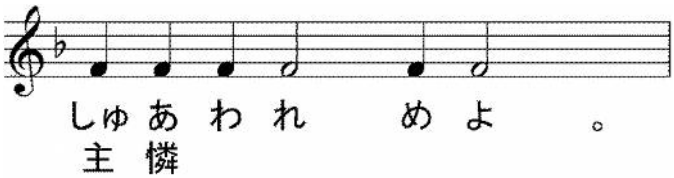
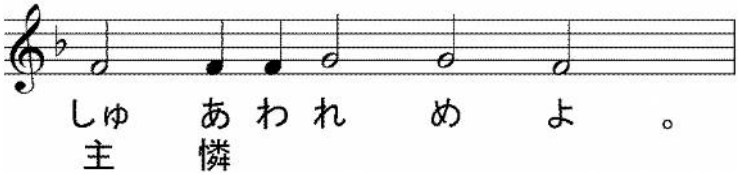
【　重聯禱　】

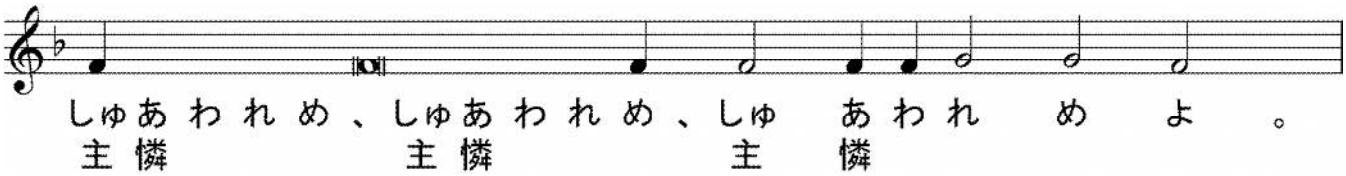
司祭）我等皆　靈　を　全　うして曰わん、我等の　思　を　全　うして曰わん、



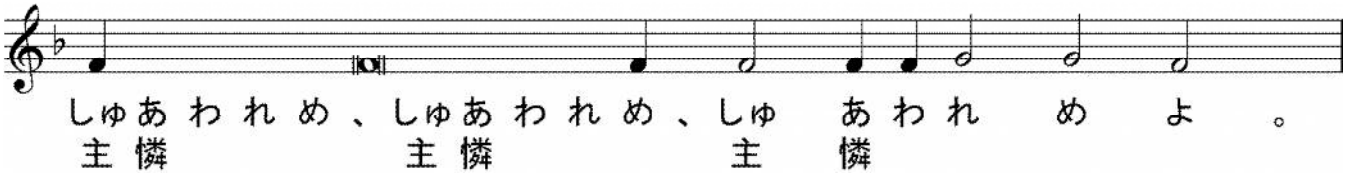
司祭）主 全 能 者、吾が列祖の神よ、　爾　に禱る聆き納れて　憐　めよ、



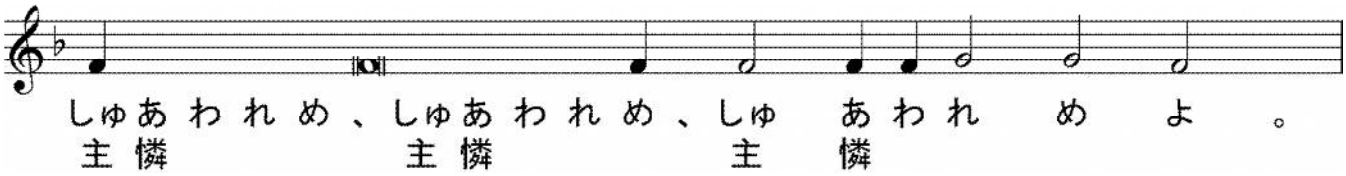
司祭）神よ、爾　の　大　なる　憐　に因りて我等を　憐　めよ、爾　に禱る、聆き納れて　憐　めよ、



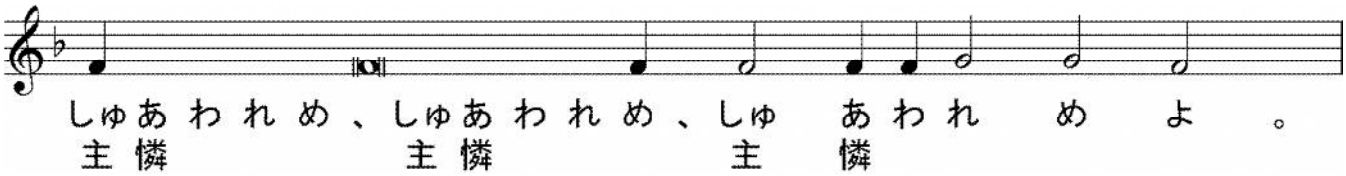
司祭）又我が國の天 皇 及び國を　司　る者の爲に禱る、



司祭）又　教　會を　司　る尊貴なる我等の全日本の府主　教　セラフィム、及びハリストスに於ける　悉　くの我等の兄 弟の爲に禱る、

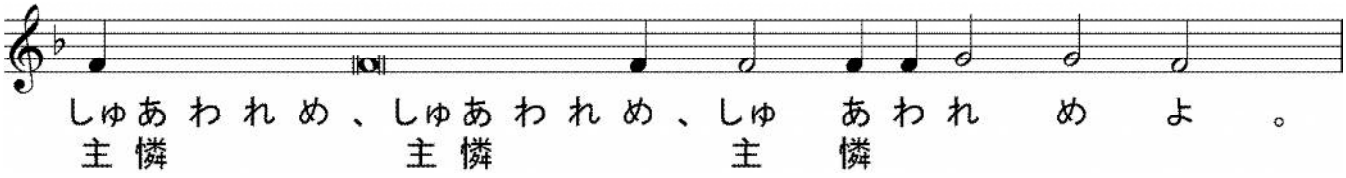


司祭）又 我等の兄 弟、諸司祭、諸　修　道司祭、及びハリストスに於ける我等の　衆　兄 弟の爲に禱る、

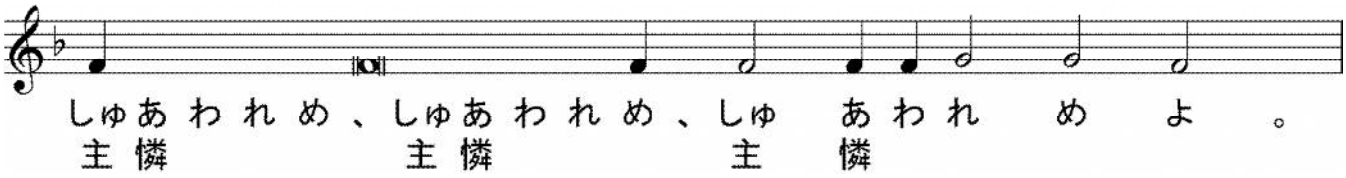


司祭）又 恒に記憶せらるる、福たる至聖なる正　教　の総 主 教、この聖 堂の建　立　者、及び已に寢りし　悉　くの父祖兄 弟、此の　處　と諸 方とに　葬　られたる正　教　の者の爲

に禱る、



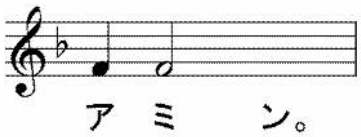
司祭）又此の至尊なる聖堂に物を獻り、善業を行い、之に勞し、之に歌い、及び此に立ちて爾の大にして豐なる憐を仰ぎ望む者の爲に禱る、



（ ※ 特別な災害や特別な感謝がある時、重聯禱にその旨追加する場合がある。その場合も「主憐れめ、主憐れめ、主憐れめよ。」と応えて歌う。 ）

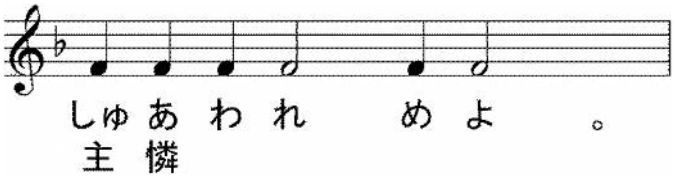
司祭）（ 黙誦：主我が神よ、爾の諸僕より此の熱切の祈禱を受け、爾が憐の多きに因りて我等を憐み、爾の惠を我等と凡そ爾の豐なる憐を仰ぐ爾の民に遣し給え、 ）

司祭）蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

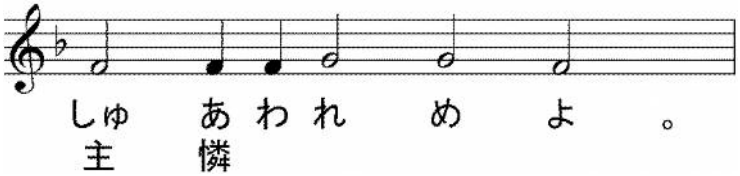


【 啓蒙者の爲の聯禱 】

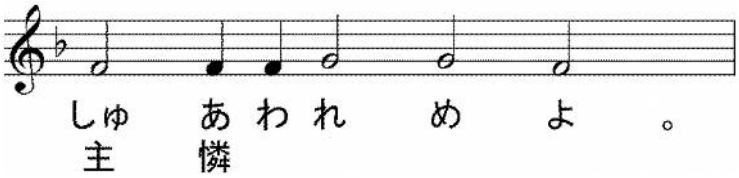
司祭）啓蒙者よ、主に禱るべし、



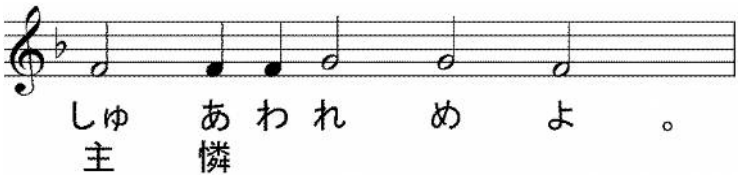
司祭）信者よ、啓蒙者の爲に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、



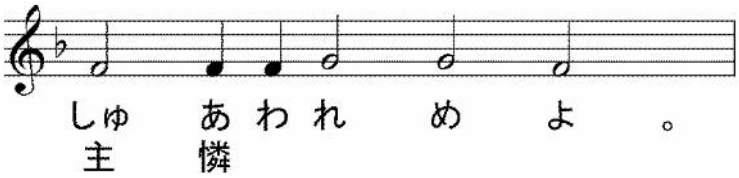
司祭）眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、



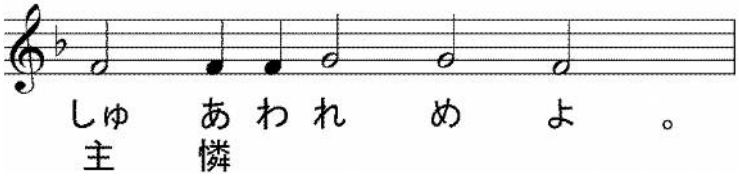
司祭）義の福音経を彼等に啓かん、



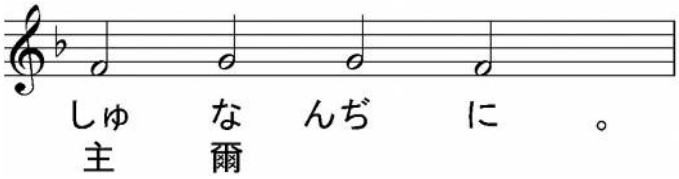
司祭）彼等を其聖・公・使徒の教會に一にせん、



司祭）神よ、爾の恩寵を以て、彼等を救い憐み佑け護れよ、

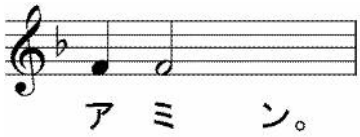


司祭）啓蒙者よ、爾等の首を主に屈めよ、



司祭）（ 黙誦：主我が神、天に居り、爾が悉くの造工を顧る者よ、爾の僕・啓蒙者・其首を爾の前に屈めし者を顧み、彼等に輕き荷を予え、彼等を爾が正教會の尊き肢體となし、彼等に復生の浴盤、諸罪の赦、不朽の衣を賜いて、爾我等の眞の神を識るを致させ給え、 ）

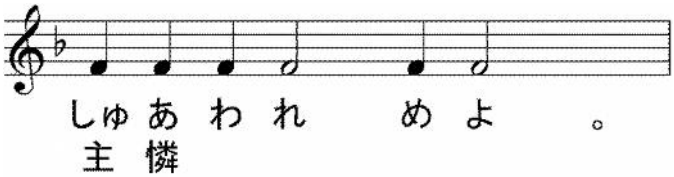
司祭）願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、



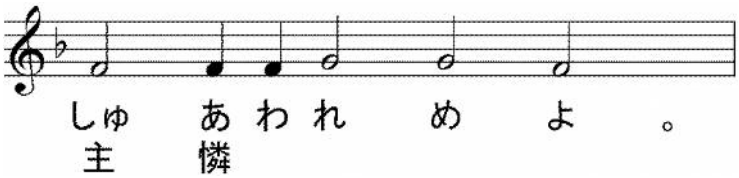
【 信者の聯禱１ 】

司祭）衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信

者復又安和にして主に禱らん、



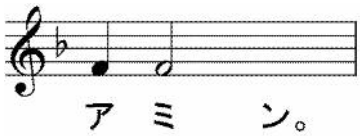
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭）睿智、

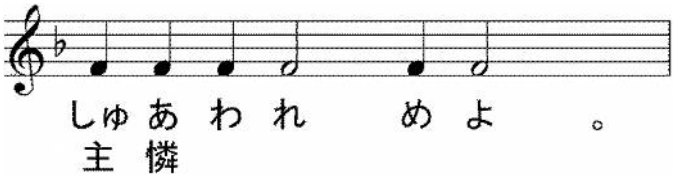
司祭）（ 默誦：主よ、爾は我等に此の大なる救の機密を示し、爾は我等卑微にして堪えざる爾の僕に、爾の聖なる祭壇の奉事者となるを許し給えり、求む爾が聖神の力を以て、我等を此の奉事に堪うる者となして、我等が定罪なく爾の聖なる光榮の前に立ちて、爾に讃美の祭を獻ぐるを致させ給え。蓋爾は衆中に萬事を行う者なり、主よ、我等の罪と衆人の過との爲に捧ぐる所の我等の祭が爾の前に納れられ喜ばるる者となるを得せしめ給え、 ）

司祭）蓋凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、

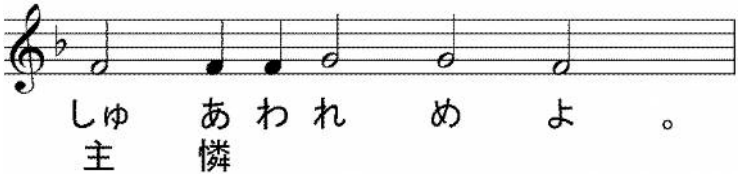


【 信者の聯禱２ 】

司祭）我等復又安和にして主に禱らん、



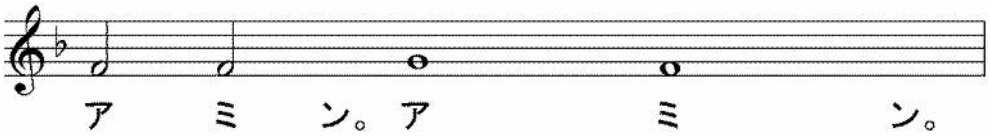
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



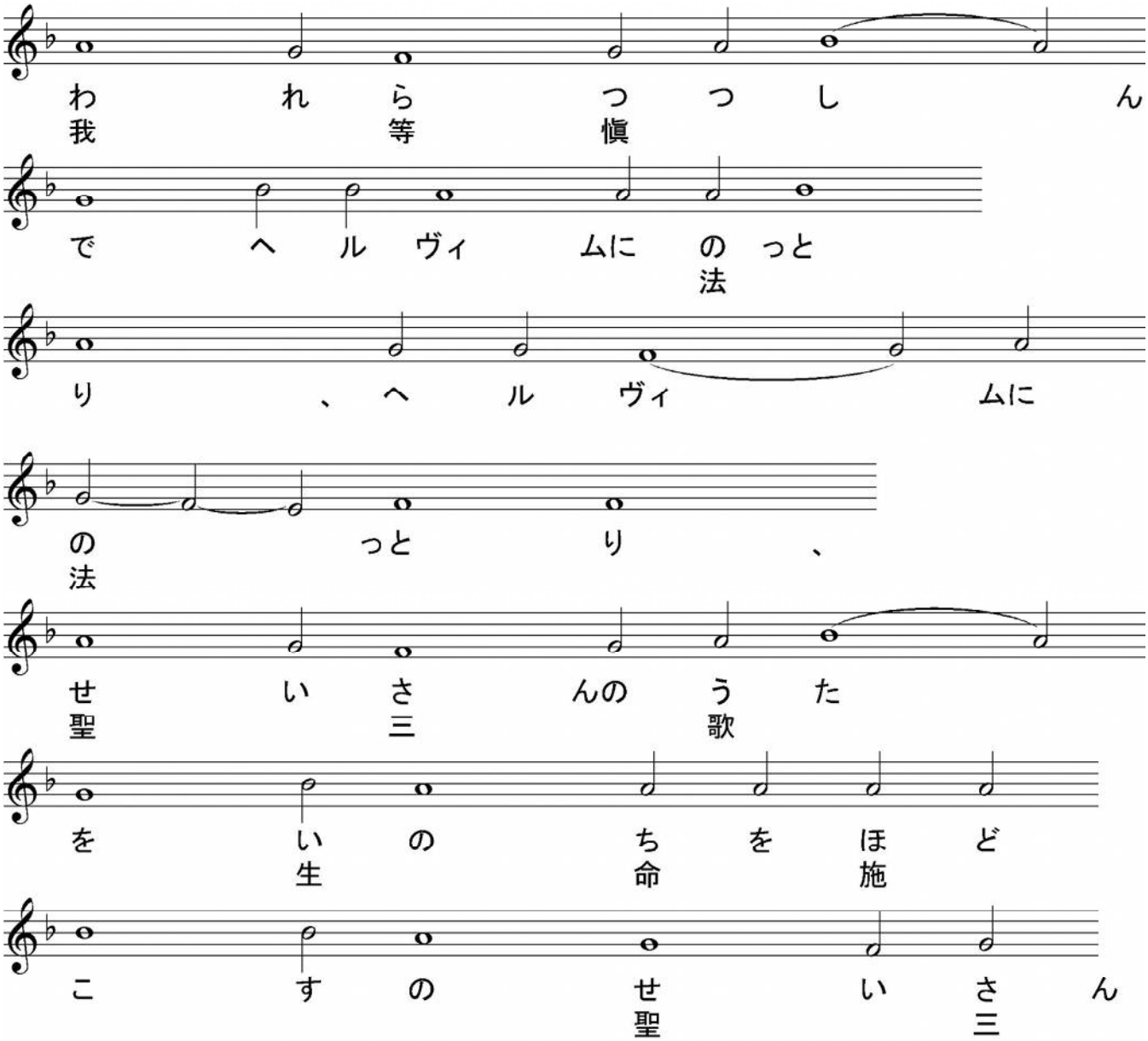
司祭）睿智、

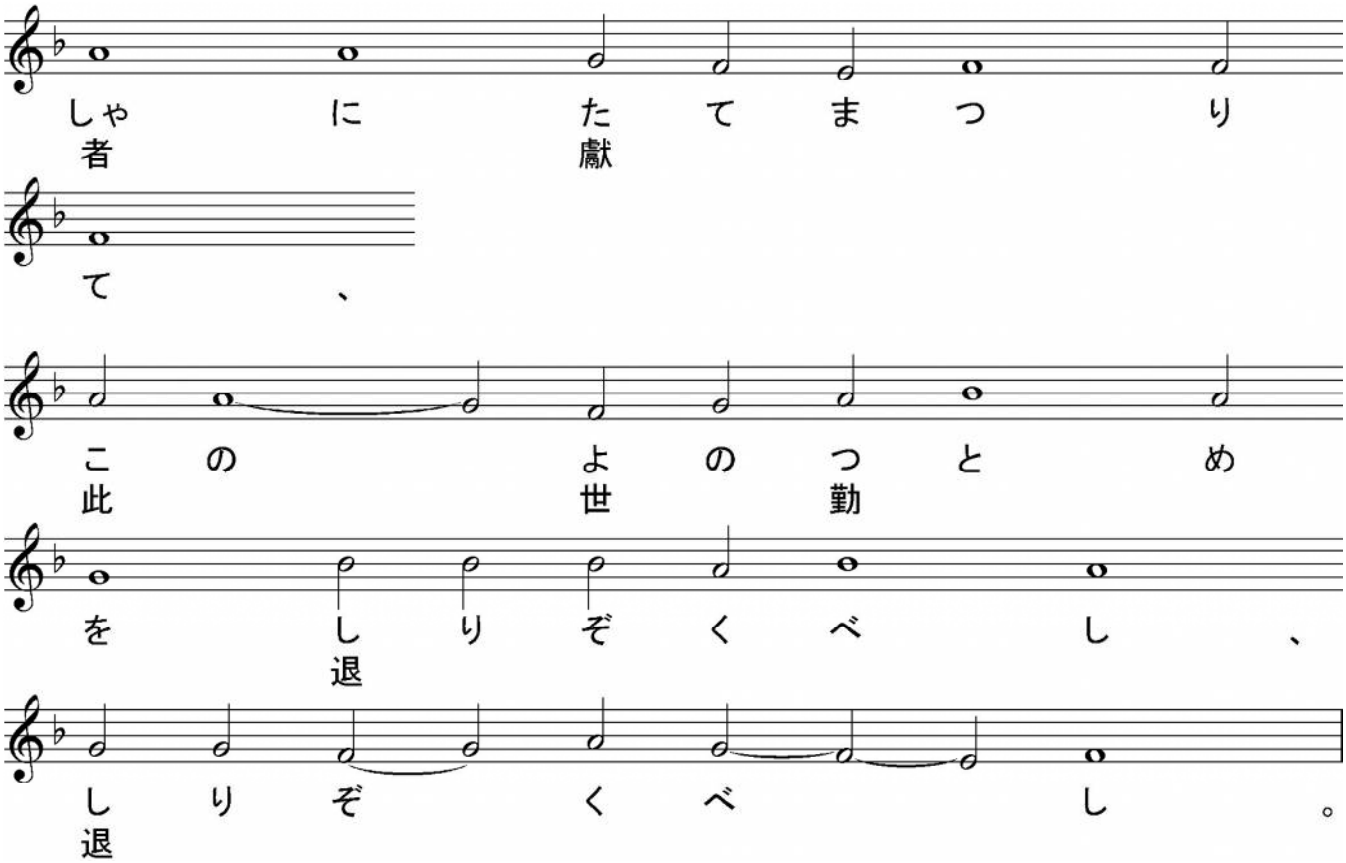
司祭)（ 黙誦：神・慈憐宏恩を以て我等の卑微を顧み、我等卑微にして罪ある爾の堪えざる僕を爾が聖なる光榮の前に立てて爾の聖なる祭壇に奉事せしむる主よ、爾が聖神の力を以て我等を此の奉事の爲に固め、我等の口を啓き言を賜いて、獻げんとする祭品に爾が聖神の恩寵を呼ばしめ給え、 ）

司祭) 我等常に爾が權柄の下に護られて、光榮を爾父と子と聖神に獻ずるが爲なり、今も何時も世世に、



【 ヘルヴィムの歌 】





司祭）（ 黙誦：肉體の慾と快樂とに縛られし者は、一も爾光榮の王に來り、或は近づき、或は奉事するに堪うるなし、蓋爾に奉事するは、天軍の爲にも大にして畏るべきなり、然れども爾は言い難く量り難き爾の仁愛に因りて、本性を易えず失わずして人となり、我等の爲に司祭首となり、又萬有の主宰なるに縁りて、我等に此の奉事の無血祭の聖事を傳え給えり、蓋主我が神や、爾は獨天地の事を宰理す、爾はヘルヴィムの寶座に荷わるる者、セラフィムの主、イズライリの王、獨聖にして聖者の中に息う者なり、故に我爾獨善にして善く納るる者に禱る、我罪ありて堪えざる爾の僕を顧み、我が靈と心とを邪なる思慮より淨め、我神品の恩寵を被れる者を、爾が聖神の力に藉りて、此の爾の聖なる食案の前に立ち、爾が至淨なる聖體至尊なる聖血の機密を行うに堪うる者となし給え、蓋我首を屈めて爾に就き、爾に禱る、爾の顔を我より避くる勿れ、我を爾が僕衆の中より却くる勿れ、乃我罪有りて當らざる爾の僕に此の祭物を獻ぐるを致させ給え、蓋ハリストス我が神よ、爾は獻ずる者と獻ぜらる者、受くる者と頒たるる者なり、我等光榮を爾と

爾の無原の父と　至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、　）

司祭）（　黙誦：我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌いて、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌いて、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁るを戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

我等奥密にしてヘルヴィムを像り、聖三の歌を生命を施す三者に歌いて、今此の世の慮を悉く退く可し、天使の軍の見えずして荷い奉る萬有の王を戴かんとするに縁るを戴かんとするに縁る、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、

神よ、我罪人を浄め給え、神よ、我罪人を浄め給え、神よ、我罪人を浄め給え、　）

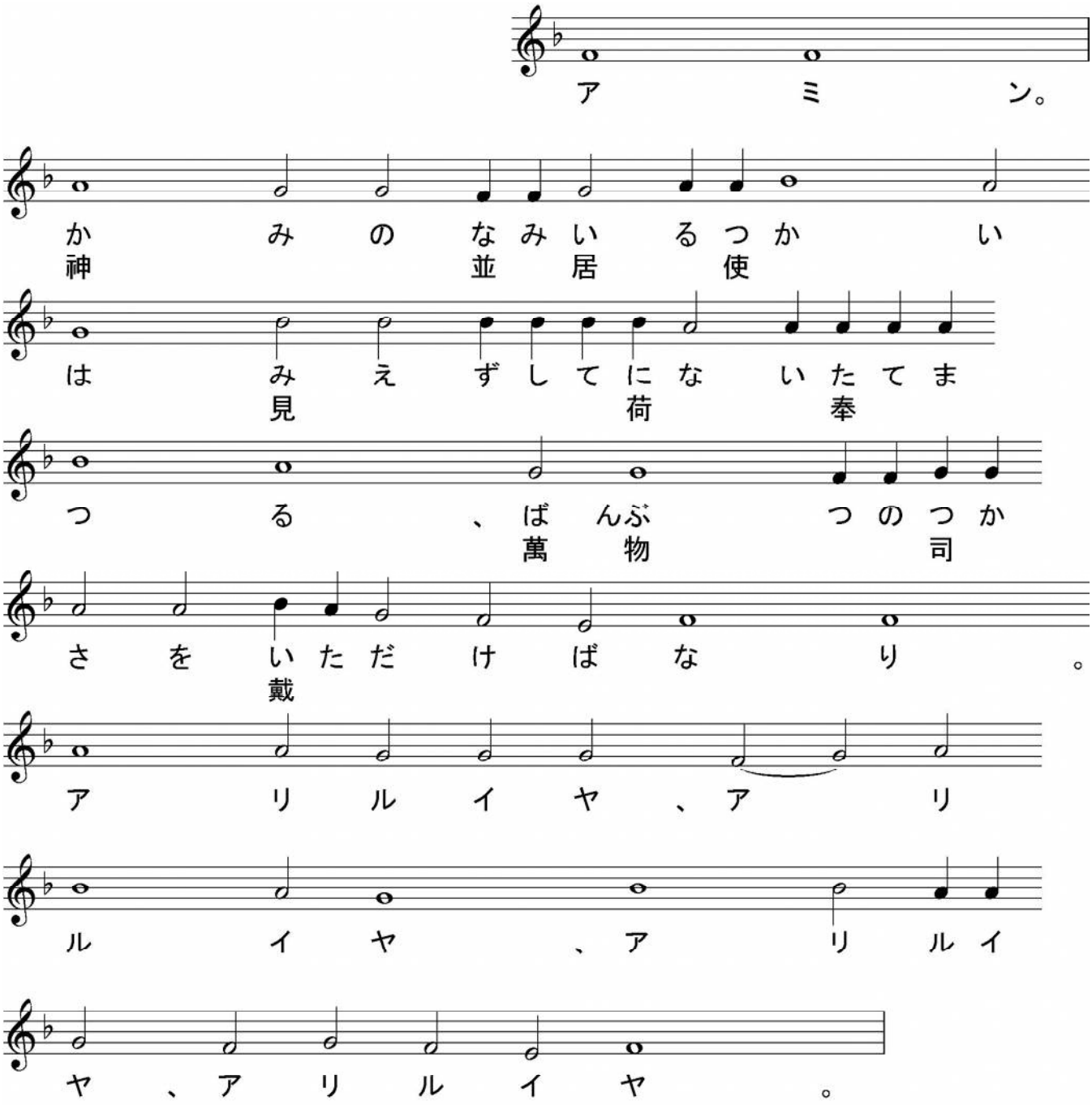
【　大聖入　】

司祭）願くは主・神は其國に於て、我が國の天皇及び國を司る者を恒に記憶せん、今も何時も世世に、

願くは主・神は其國に於て、教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィムを恒に記憶せん、今も何時も世世に、

願くは主・神は其國に於て、已に寢りし府主教セルギイ、府主教イリネイ、府主教ウラディミル、府主教フェオドシイ、府主教ダニイル、大主教ニコライ、主教ニコライ、主教ペトル、（　及び殊に記憶せらるる　某　）我等の已に寢りし家族、兄弟姉妹、諸の縁者、朋友等を恒に記憶せん、今も何時も世世に、

願くは主・神は其國に於て、爾衆正教のハリスティアニン等（及び殊に記憶せらるる某）を恒に記憶せん、今も何時も世世に、



司祭）（黙誦：尊きイオシフは爾の潔き身を木より下し、浄き布に裏み、香料にて覆い、新なる墓に藏めり、

ハリストスよ、爾は神なるにより、體にて墓に在り、靈にて地獄に在り、右盜と偕に天堂に在り、父と聖神と共に寶座に在り、限なき者として一切を滿て給えり、

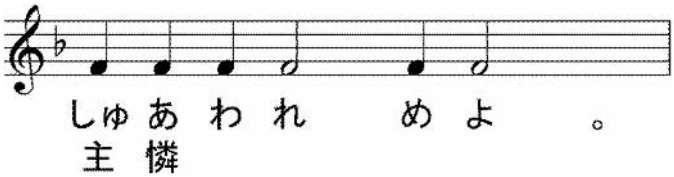
ハリストスよ、我が復活の泉たる爾の墓は、生命を施す者、地堂より美しき者、実に如何なる王の宮よりも耀ける者と顯れたり、

尊きイオシフは爾の潔き身を木より下し、淨き布に裹み、香料にて覆い、新なる墓に藏めり、

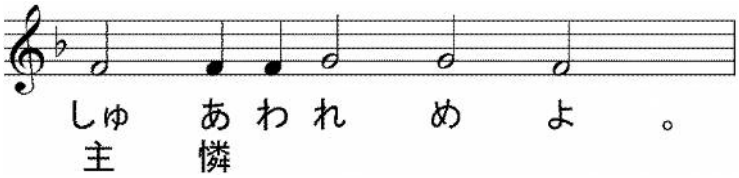
主よ、爾の惠に因りて恩をシオンに垂れ、イェルサリムの城垣を建て給え、其時に爾義の祭、獻物と燔祭を喜び饗けん、其時に人人爾の祭壇に犢を奠えんとす、　）

【　増聯禱　】

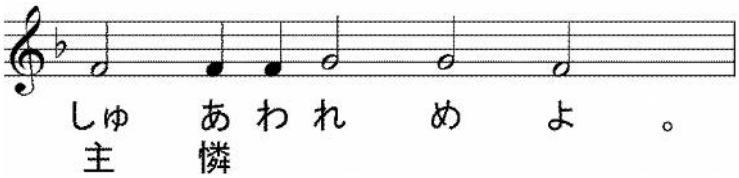
司祭）我等主の前に吾が禱を増し加えん、



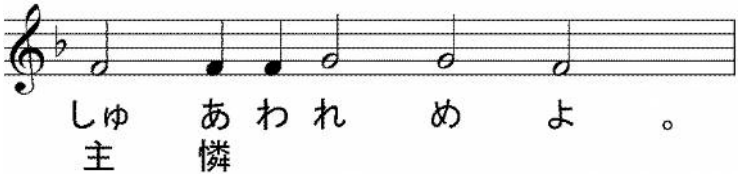
司祭）獻げたる尊き祭品の爲に主に禱らん、



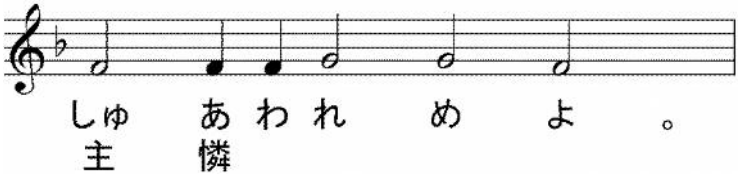
司祭）此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



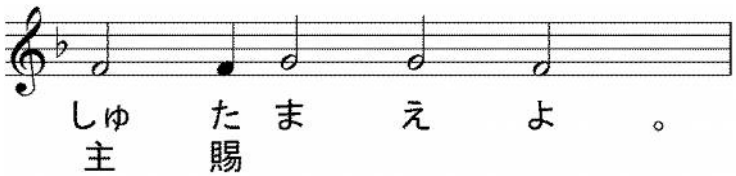
司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



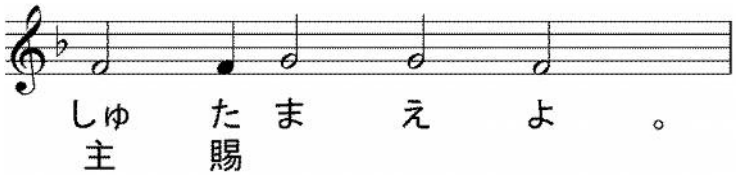
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



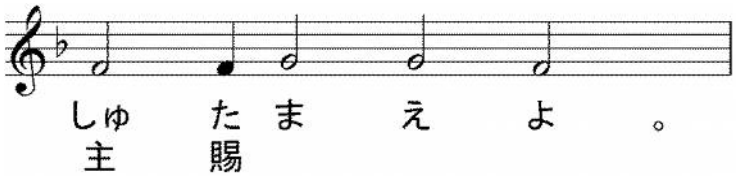
司祭）此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



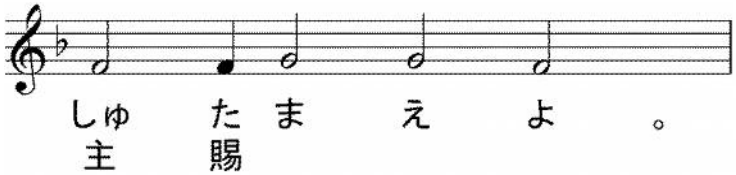
司祭）平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む、



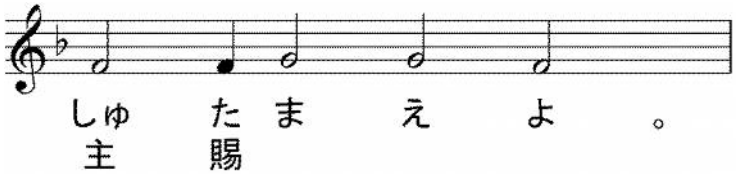
司祭）我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



司祭）我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、

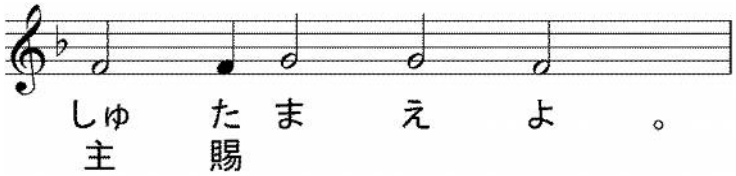


司祭）我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



司祭）我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及び

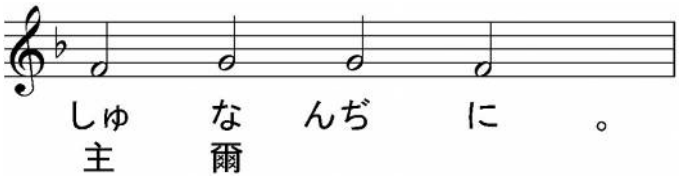
ハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



司祭）至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤ

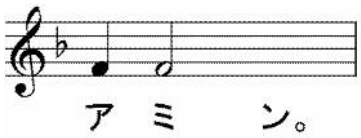
と、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉く

の我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



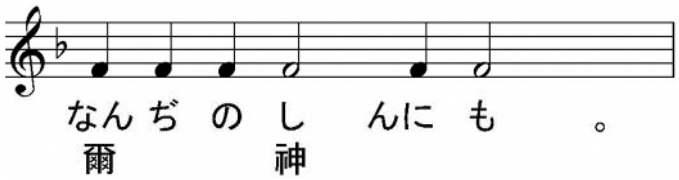
司祭）（ 黙誦：主我が神、我等を造りて此の生命に入れ、我等に救の道を示し、我等に天上の奥密の啓示を賜いし者よ、爾は爾が聖神の力を以て、我等を此の奉事の爲に立て給えり、求む主よ、我等が爾の新約の奉事者 爾の聖機密の役者となるを嘉し、爾が慈憐の多きに因りて、我等 爾の聖なる祭壇に近づく者を納れ給え、願くは我等は、我が罪と衆人の過との爲に、爾に此の靈智なる無血の祭を獻ぐるに堪うる者とならん、祈る 爾之を 爾の聖なる天上の無形の祭壇に置き、馨香として之を享け、我等に報ゆるに爾が聖神の恩寵を降すを以てせよ、神よ、我等に臨み、此の我等の奉事を顧みて、之を享くること、アヴェリの獻物ノイの祭、アブラアムの燔祭、モイセイとアアロンとの神職、サムイルの和平祭を享けしが如くせよ、主よ、爾曾て聖使徒より此の眞の奉事を享けしが如く、我等罪なる者の手よりも、爾の仁慈を以て此の獻物を享け給え、此くの如く、我等を玷なく爾の聖なる祭壇に奉事せしめて、我等に爾の義なる報の畏るべき日に於て、忠にして智なる家宰の賞を得るを致させ給え、 ）

司祭）**爾の獨生子の慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、**

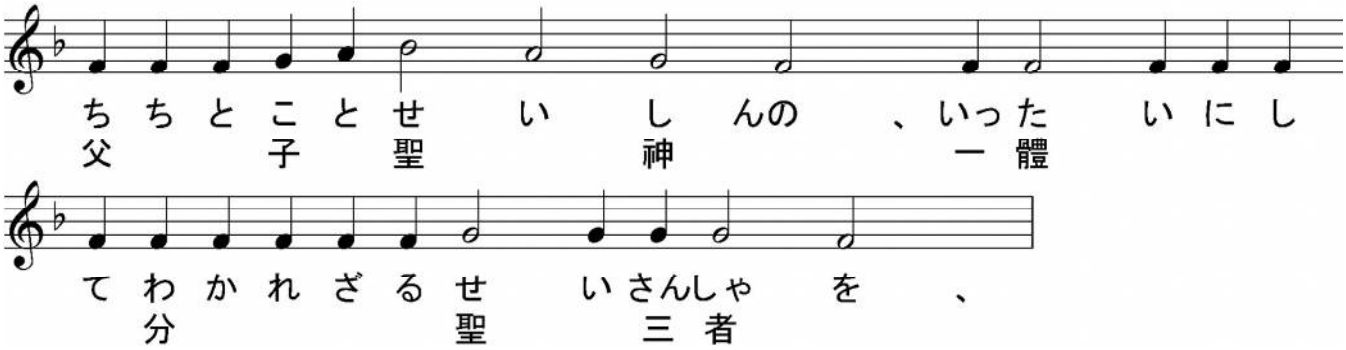


【 ニケア・コンスタンチヌーポリ全地公会にて採択されし信経 】

司祭）**衆人に平安、**



司祭）**我等互に相愛すべし、同心にして承け認めんが爲なり、**



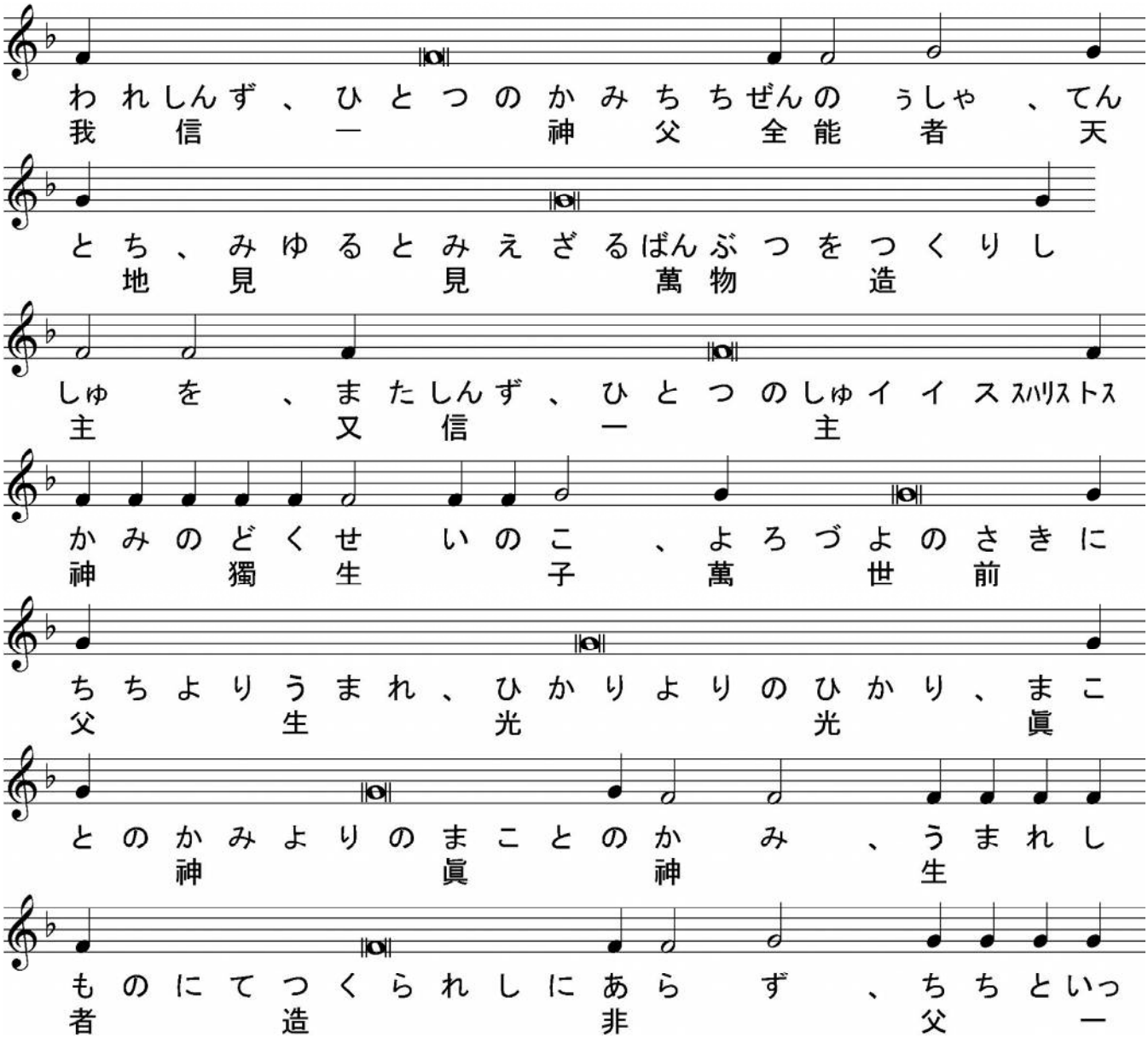
司祭)（ 黙誦：主我(しゅわれ)の力(ちから)よ、我爾(われなんぢ)を愛(あい)せん、主(しゅ)は我(われ)の防固(かため)、我(われ)の避所(かくれが)なり、主我(しゅわれ)の

力(ちから)よ、我爾(われなんぢ)を愛(あい)せん、主(しゅ)は我(われ)の防固(かため)、我(われ)の避所(かくれが)なり、主我(しゅわれ)の力(ちから)よ、我(われ)

爾(なんぢ)を愛(あい)せん、主(しゅ)は我(われ)の防固(かため)、我(われ)の避所(かくれが)なり、

聖(せい)なる神(かみ)、聖(せい)なる勇毅(ゆうき)、聖(せい)なる常聖(じょうせい)の者(もの)よ、我等(われら)を憐(あわれ)めよ、 ）

司祭) 門(もん)、門(もん)、敬(つつし)みて聽(き)くべし、



たいにしてばんぶつかれにつくら れ 、われ
體 萬物 彼 造 我

らひとびとのため、またわれらのすくいのた
等人 人 爲 又我等 救 爲

めにてんよりくだ り 、せいしんおよびどうて
天 降 聖 神及 童 貞

いぢょマリヤよりみをとりひととな り 、わ
女 身 取 人 我

れらのためにポンテイピラトのときじゅうじかに
等 爲 時 十 字

くぎうた れ 、くるしみをうけほうむら
釘 苦 受 葬

れ 、だいさんじつにせいしょにかないてふく
第 三 日 聖 書 應 復

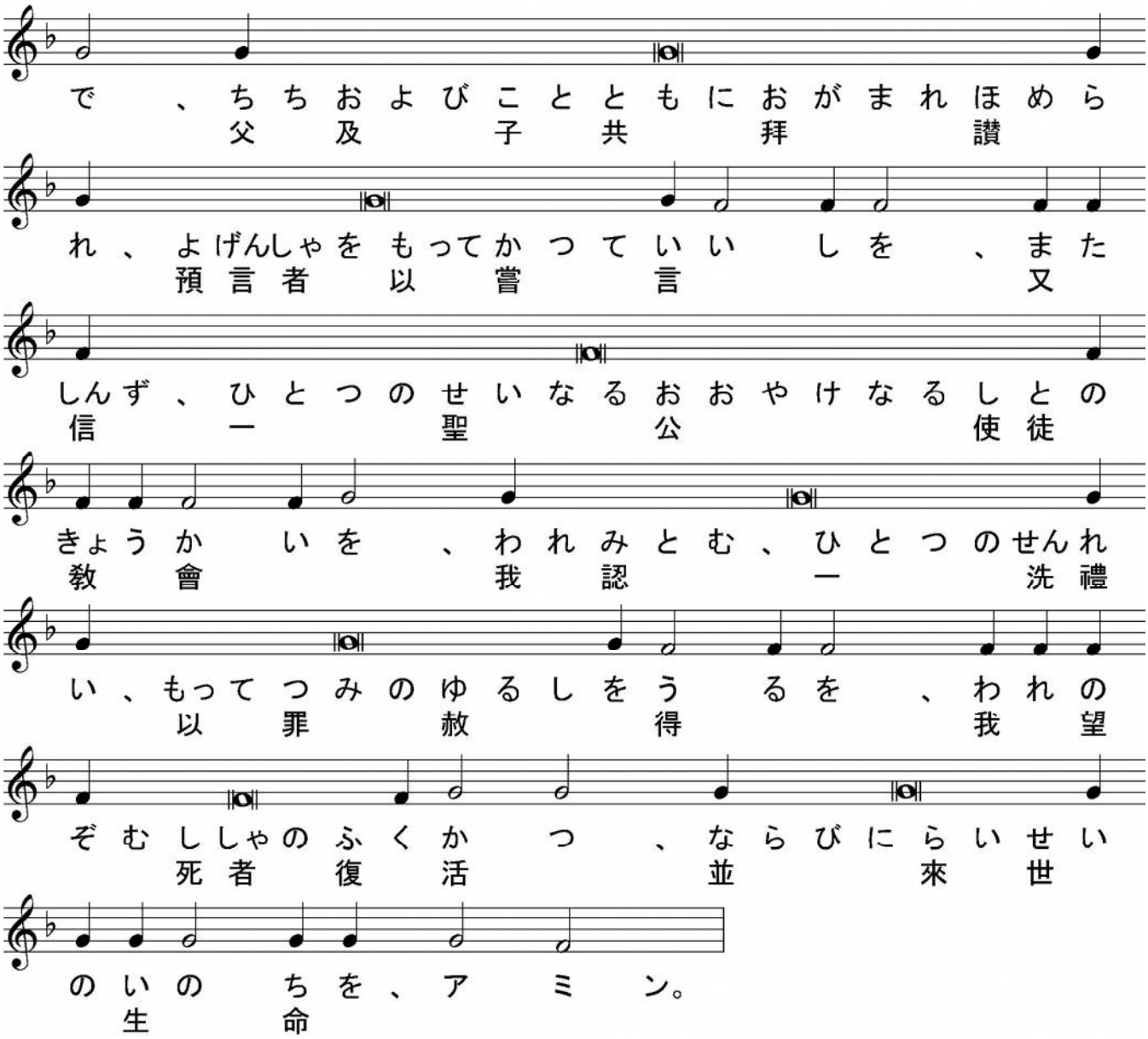
かつし 、てんにのぼり、ちちのみぎにざ
活 天 升 父 右 坐

し こうえいをあらわしていけるものとせ
光 榮 顯 生 者 死

しものとをしんぱんするためにまたきた り 、
者 審 判 爲 還 來

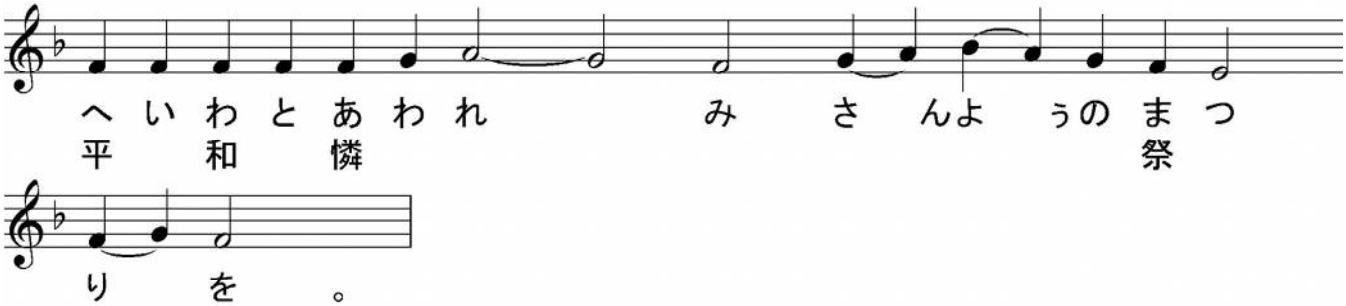
そのくにおわりなから んを 、またしんず、せ
其 國 終 又 信 聖

いしんしゅいのちをほどこすものちちよりい
神 主 生 命 施 者 父 出

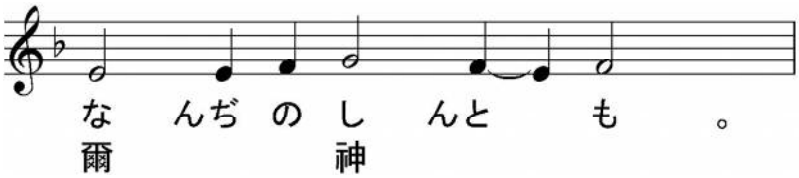


【 奉獻（アナフォラ） 】

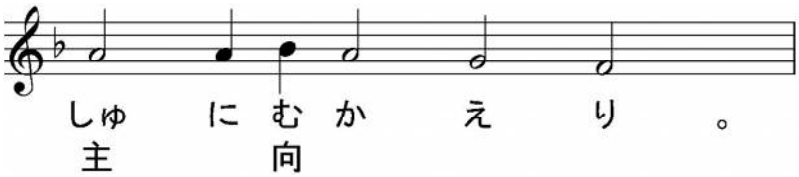
司祭）正（ただ）しく立（た）ち、畏（おそ）れて立（た）ち、敬（つつし）みて安和（あんわ）にして聖（せい）なる獻物（ささげもの）を奉（たてまつ）らん、



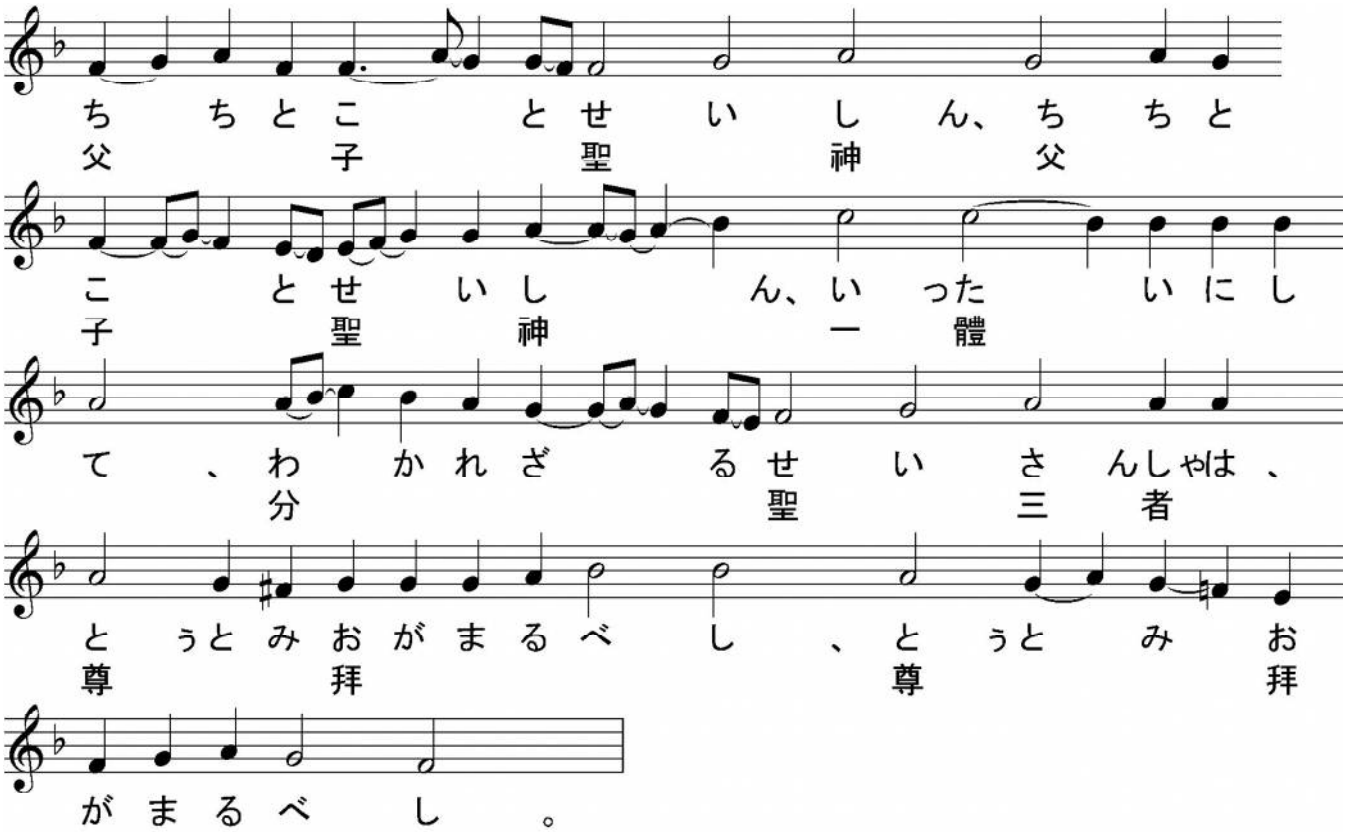
司祭）願（ねがわ）くは我（わ）が主（しゅ）イイススハリストスの恩（めぐみ）、神父（かみちち）の慈（いつくしみ）、聖神（せいしん）の親（したしみ）は、爾衆（なんぢしゅう）人（じん）と偕（とも）に在（あ）らんことを、



司祭）心上に向うべし、



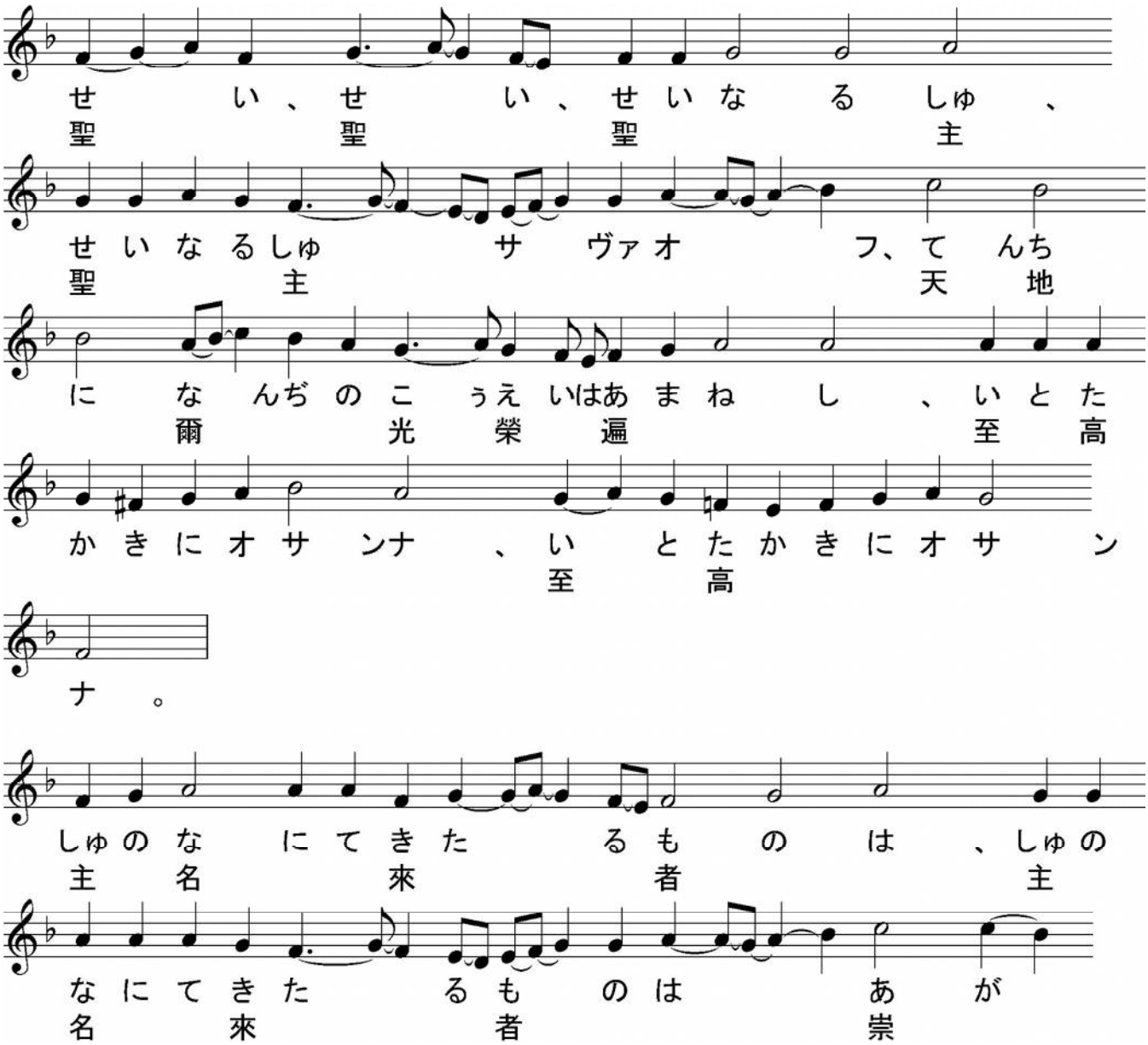
司祭）主に感謝すべし、

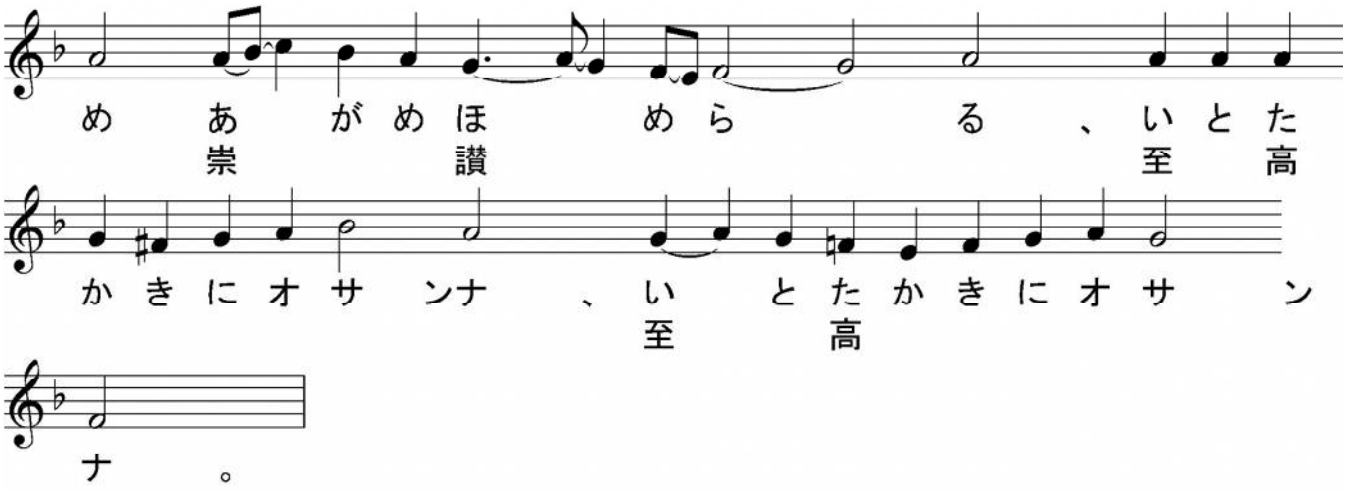


司祭）（ 默誦：永在の主宰・主・神・父・全能者・拜まるる者よ、爾を讃美し、爾を歌頌し、爾を讃揚し、爾に伏拜し、爾に感謝し、爾獨實在する神を讃榮し、悔悟の心と謙卑の靈とを以て、爾に此の靈智の奉事を獻ぐるは、誠に當然に誠に義にして、誠に爾が聖位の威嚴に適えり、蓋爾は我等に爾の眞實を知るを賜いし主なり、主宰よ、孰か能く爾の能力を言い、爾が悉くの讃美を傳え、爾が諸時の諸奇蹟を宣ぶるに堪えん、爾は萬有の主宰、天と地、見ゆると見えざる萬物の主、光榮の寶座に坐し、淵を鑒み、始なく、見る可からず、測る可からず、象る可からず、變らざる者、我が主イイススハリストス、大なる神及び救世主、我等の恃なる者の父なり、彼は爾が至善の像、同形の印、己の中に爾父を顯

す者、生活の言、眞の神、永遠の智慧・生命・成聖・能力・眞の光なり、彼に因りて聖神現れたり、乃眞實の神、義子とする恩賜、將來の嗣業の聘質、永福の始、生活を施す力、成聖の泉なり、悉くの有言有智の造物は、彼に固められて爾に奉事し、爾に永遠の讃榮を獻ず、蓋萬有は爾に務む、天使・天使首・寶座・主制・首領・權柄・能力・多目のヘルヴィムは爾を讃美し、セラフィムは爾を環りて立つ、各六翼あり、二翼其面を蔽い、二翼其足を覆い、二翼を以て飛び、緘ぢざる口、默さざる讃榮を以て互に相呼ぶ、）

司祭）凱歌を歌い、籲び、叫びて曰う、



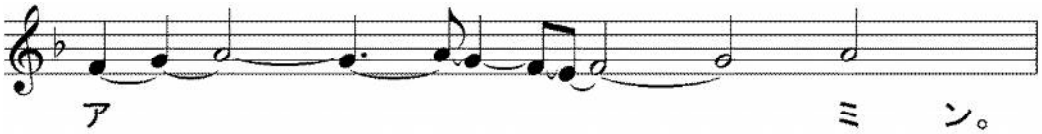


司祭)（ 黙誦：人を愛する主宰よ、我等罪ある者も此の福たる軍と偕に籲びて曰う、爾は聖なる哉、誠に至聖なる哉、爾が聖位の威嚴は測り難し、爾は悉くの行爲に聖なり、義と眞の審判とを以て悉く我等に施ししに因る、蓋神よ、爾は地より塵を取りて人を造り、爾の像を以て之を貴くし、之を甘美なる地堂に置き、之に爾の誡を守るが爲に、死せざる生命と永福の樂とを約し給えり、然れども彼は、爾彼を造りし眞の神に背き、蛇の誘に迷わされ、己の罪に殺されしにより、神よ、爾は義の審判を以て彼を地堂より此の世に逐い出だし、彼を造るが爲に取りたる土に歸し、爾のハリストスを以て、彼が爲に復生の救を設け給えり、至善者よ、蓋爾は終に至るまで、爾が造りし物より顏を避けず、爾が手の行爲を忘れず、乃爾が仁慈の憐に因りて、多方を以て之を顧み、預言者を遣し、爾の聖人、累代爾を喜ばしし者を以て異能を行い、爾の僕諸預言者の口を以て我等に告げて、預め將來の救を知らしめ、法律を賜いて助となし、諸天使を立てて守護者となし、時の滿つるに及びて、我等に告ぐるに爾の子を以てせり、爾は彼を以て世世を造れり、彼は爾が光榮の光、爾が聖位の肖像なり、彼は其能力の言にて萬物を扶持して、己を爾神・父に匹しくするを僭とせず、然れども永在の神にして地に顯

れ、人と偕に在し、聖なる童貞女より身を取り、己を虚くし、僕の形を受け、我等の卑賤の體に肖たる者となり給えり、我等を其光榮の形に肖たる者となさんが爲なり、蓋人に因りて罪は世に入り、罪に因りて死も亦入りしにより、爾の獨生子、爾神・父の懐に居る者は、婦即聖なる童貞女・永貞童女マリヤより生れ、法律の下に在りて、甘じて己の身に於て罪を擬定せり、アダムの中に死する者が爾のハリストスの中に復生せん爲なり、彼は此の世に居り、救を施す誡命を賜い、我等を偶像の惑より脱し、我等を導きて爾眞の神・父を知るに至らしめ、我等を、選を蒙る族、王たる神品、聖なる民として己に獲て、水を以て我等を淨め、聖神を以て聖にし、己を贖として、我等罪の下に賣られたる者を繋ぎし所の死に予え、己を以て萬有を充滿するが爲に、十字架に由りて地獄に降り、死の病を釋き、第三日に復活して、凡の肉體の爲に死より復活する途を啓き、(蓋腐敗は生命の首を繋ぐ能わず)死者の中より首生する者として、死せし者の中に首實の果となれり、親ら萬有の中に萬事の首始たらんが爲なり、天に升り、爾が至大位の右に其高きに坐し、再び來りて、各人に、其行に依りて報い給わん、彼は我等に其救を施す苦の記憶を遺せり、即此の我等が彼の誡に因りて獻げし所の者なり、蓋己を世界の生命の爲に付しし夜、其自由にして永遠に記憶すべき生命を施すの死に出づるに臨みて、其聖にして至淨無玷なる手に餅を取り、爾神・父に捧げ、感謝し、祝讃し、成聖し、擘きて、)

司祭) **其聖なる門徒及び使徒に予えて曰えり、取りて食え、是我が體、爾等の爲に擘かる**

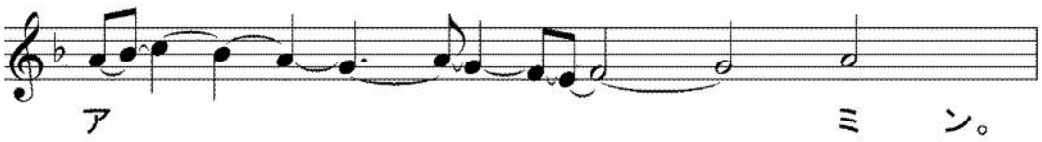
る者、罪の赦を得るを致す、



司祭)（ 黙誦: 同 く葡萄 汁を盛る 爵 を取りて水を和し、感 謝 し、祝 讃 し、成 聖 して、 ）

司祭) 其 聖 なる門徒及び使徒に予 えて曰えり、皆 之 を飲め、是 我 の新 約の血、 爾 等及び

衆 くの人の爲に流 さるる者、罪の 赦 を得るを致す、



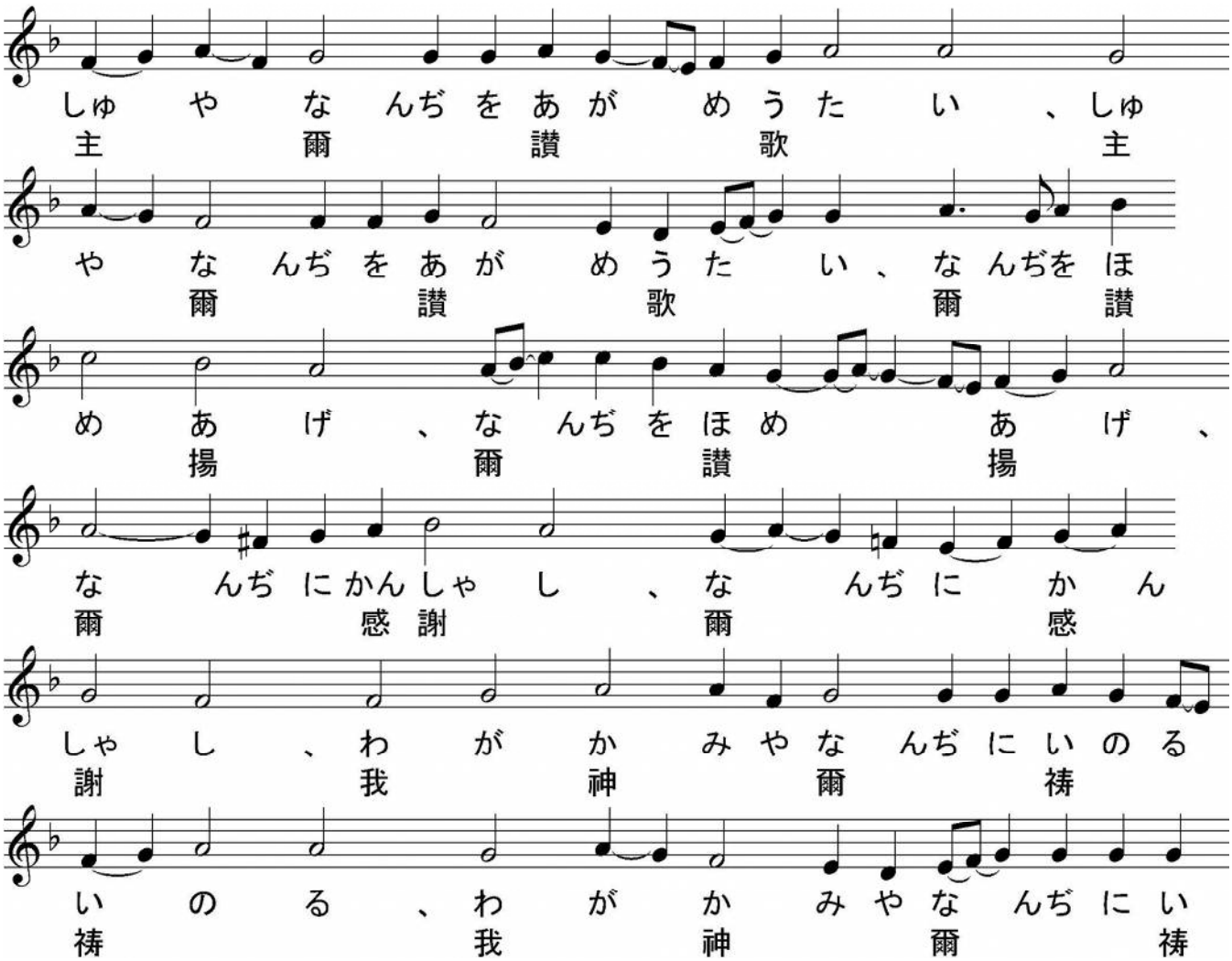
司祭)（ 黙誦: 此を 行 いて我を記憶せよ、 蓋 爾 等此の餅を食い、此の 爵 を飲む毎に、

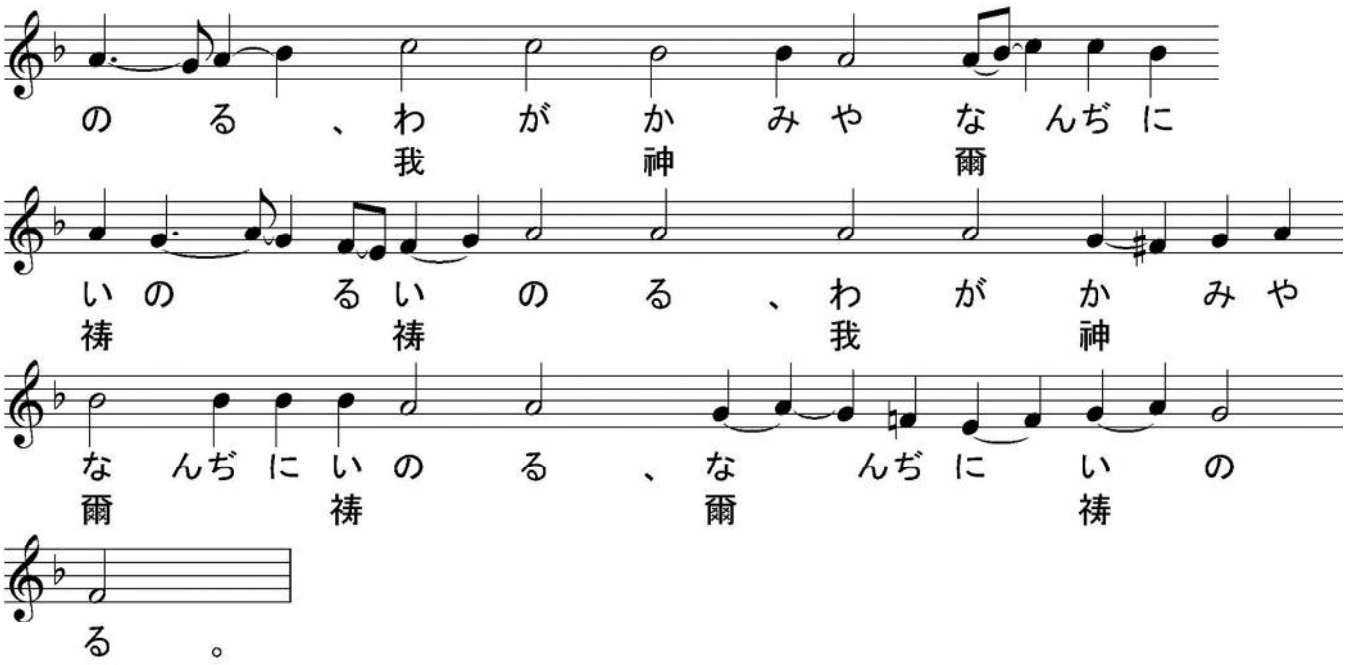
我の死を傳え、我の復 活を認む、主 宰よ、故に我等も、彼が 救 を 施 す

苦 、生命を 施 す 十 字架、三日の 瘞 、死よりの復 活、天に升る事、 爾

神・父の右に坐する事、光 榮にして畏るべき彼が再度の降 臨を記憶して、 ）

司祭) 爾 の 賜 を、 爾 の諸 僕より、 衆 の爲 一 切の爲に 爾 に 獻 りて、





司祭)（ 黙誦:至聖なる主宰よ、是を以て我等も堪えるざる僕、我等の義に因るに非ず、(蓋地に在りて何の善をも爲さず) 乃 爾 が厚く我等に注ぎし 爾 の慈憐と宏恩とに依りて、 爾 の聖なる祭壇に奉事するを獲し者は、敢て 爾 の聖なる祭壇に近づき、 爾 がハリストスの聖體聖血の眞像を獻げて 爾 に祈り、 爾 を籲ぶ、諸聖の聖なる者よ、 爾 が至善の仁愛に藉りて、 爾 の聖神を我等及び此の奠えたる祭品に臨ましめ、之に祝福し、之を聖にし、之を顯して、 ）

司祭)（ 黙誦:第三時に 爾 の至聖神を 爾 の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等 爾 に祈る者の衷に之を新にせよ、神よ、潔き心を我に造り、正しき靈を我の衷に改め給え、第三時に 爾 の至聖神を 爾 の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等 爾 に祈る者の衷に之を新にせよ、我を 爾 の顔より逐うこと勿れ、 爾 の聖神を我より取り上ぐること勿れ、第三時に 爾 の至聖神を 爾 の使徒に遣わしし至善の主よ、之を我等より取り上ぐること勿れ、尚我等 爾 に祈る者の衷に之を新にせよ、 ）

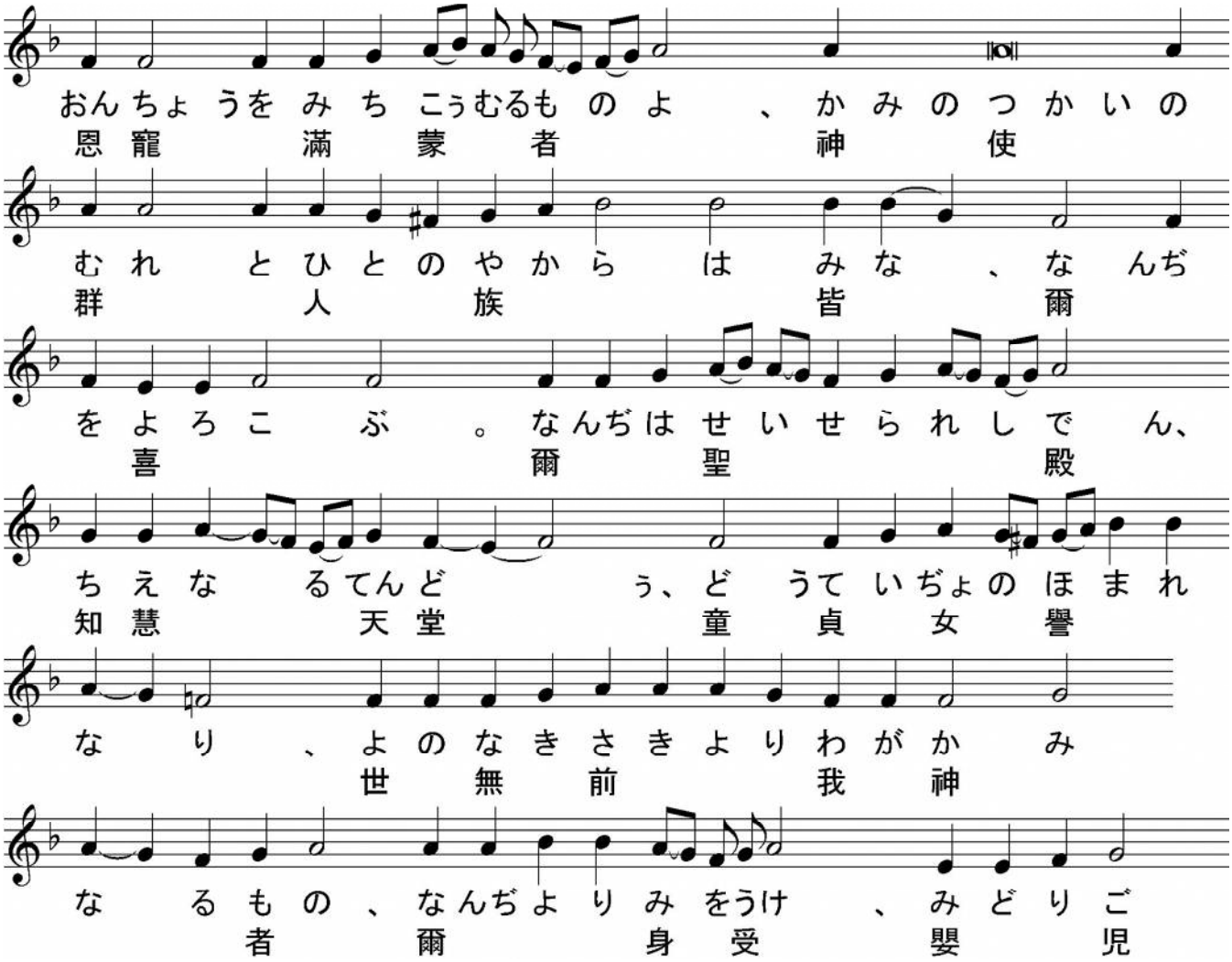
司祭) **此の餅を将て、主・神・我等の救世主イイススハリストスの眞の尊體と爲し、ア**

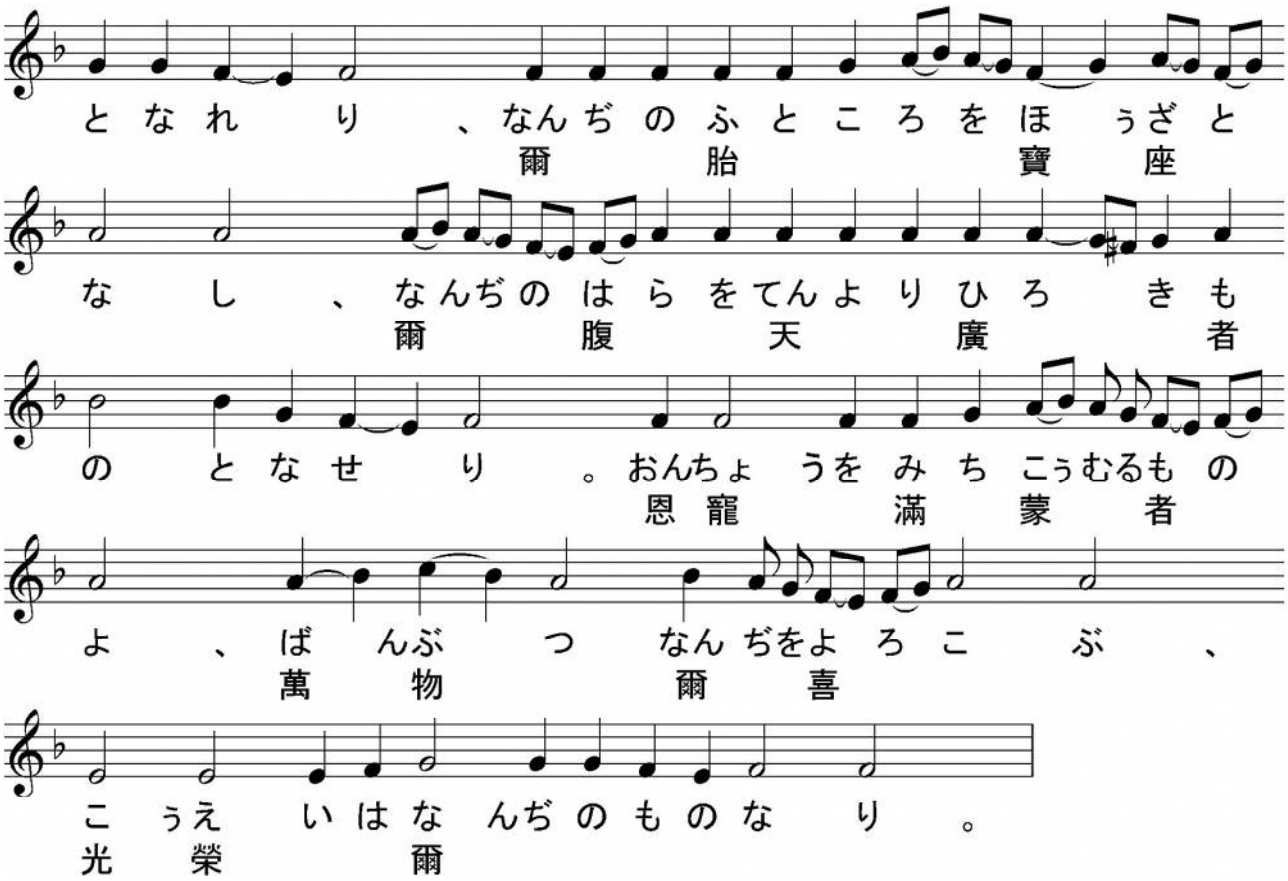
ミン。此の爵を将て、主・神・我等の救世主イイススハリストスの眞の尊血、アミン、世界の生命の爲に流されし者と爲し、アミン。爾の聖神を以て之を變化せよ、アミン。アミン。アミン。

（ 黙誦：我等衆人一餅一爵を領くる者を、惟一の聖神に體合するを以て互に和合せしめ、我が中一人も、爾がハリストスの聖體聖血を領くるを以て、審案或は定罪を得るを致す勿れ、乃我等に古世より爾の喜を爲しし諸聖人・元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・傳道者・福音者・致命者・表信者・教師、及び凡そ信を以て終りし義なる靈と偕に、慈憐と恩寵とを獲せしめ給え、 ）

司祭）特に至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと偕に、

【 常に福 に代えて 】





司祭)（ 黙誦：聖預言者・前駆・授洗イォアン、光榮にして讃美たる聖使徒、（ 某 ）及び爾が諸聖人と偕に、慈憐と恩寵とを獲せしめ給え、神よ、彼等の祈禱に因りて我等を顧み、並に凡そ永生の復活の望を懐きて寝りし者を記憶し給え、

神の僕婢（ 某 ）の救贖・眷顧・諸罪の赦の爲に禱る、

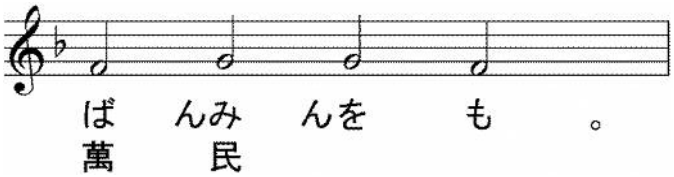
神の僕婢（ 某 ）の靈の安息の爲、之を光る處、悲と歎との遠ざかる所に置くが爲に禱る、我が神よ、彼等を爾が顔の光の照す所に安置安息せしめ給え、

又爾に禱る、主よ、爾の聖・公・使徒の教會、世界の極より極に至る者を記憶し、爾がハリストスの尊き血にて獲し所の者を平安にし、及び此の聖なる堂を堅固にして世の終に至らしめ給え、主よ、此の祭物を爾に獻げし者、及び其誰が爲に、誰を以て、誰に代りて獻しを記憶せよ、主よ、爾の諸聖堂に物を獻り、善業を行い、及び貧者を記憶す

る者を記憶して、爾が豐なる天上の恩賜を以て彼等に酬い、天の物を以て地の物に易え、不朽の物を以て腐敗の物に易えて彼等に賜え、主よ、曠野・山嶺・巖穴・地窟に在る者を記憶せよ、主よ、童貞・敬虔・禁食・潔淨を以て生を度る者を記憶せよ、主よ、我が國の天皇、爾が斯の地に王たるを嘉せし者を記憶し、眞實の武具仁慈の武具を彼に佩ばしめ、戰の日に於て其首を蔭い、其臂を強くし、其右の手を高うし、其國を堅固にし、凡そ戰を欲する異邦民を彼に歸服せしめ、奪うべからざる深き平安を彼に賜い、彼の心に爾が教會の爲、及び爾が衆人の爲に善事を告げ給え、彼の平和により、我等が凡の敬虔と潔淨とを以て、恬静安然として生を度らんが爲なり、主よ、國を司る者を記憶せよ、善なる者を善に守り、惡なる者を爾の仁慈を以て善なる者と爲し給え、主よ、此に立つ衆人、及び已む能わざる故に因りて來らざる者を記憶し、爾が慈憐の多きに因りて、彼等と我等とを憐み給え、彼等の庫に諸の善物を盈たし、彼等の夫婦を平和と同心とに護り、嬰児を養育し、少年を訓導し、老者を扶持し、心狹みたる者を慰め、散じたる者を聚め、迷わされし者を歸して、爾が聖・公・使徒の教會に合わせ給え、汚鬼に苦めらるる者を釋き、航海する者と偕に航海し、旅行する者と偕に旅行し、嫠婦を庇い、孤子を護り、擄となりし者を救い、病を患うる者を醫し給え、神よ、裁判・鑛山・流罪・苦役、及び凡そ憂愁と患難と危難とに居る者を記憶せよ、主我が神よ、凡そ爾の大なる愛憐を求むる者、又我等を愛する者、我等を惡む者、我等當らざる者に代り祈るを託せし者、及び爾の衆人を記憶し、衆に爾の豐なる慈憐を注ぎ、衆に其求むる所、凡そ救の爲に切要なる者を予え給え、神よ、我等知らざるにより、或は忘るるにより、或は名の多きによりて記憶せざる者は、爾各人の生長と姓

名とを知り、各人を其母の胎内より知るを以て、親ら之を記憶せよ、蓋主よ、爾は助なき者の倚助、望なき者の冀望、颱風に遭う者の救者、航海する者の埠、病を患うる者の醫師なり、爾親ら衆人の爲に、各其求むる所となり給え、蓋各人を知り、其願と其家と其需とを知ればなり、主よ、此の都邑と地方とを、饑饉・疫病・地震・水難・火難・劒難・外攻・内亂より救い給え、）

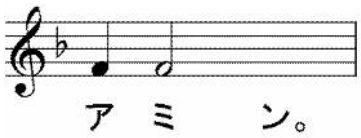
司祭）**主よ、殊に教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィムを記憶し、彼を平安・無難・尊貴・壮健・長壽なる者、及び爾が眞實の言を正しく傳うる者として、爾の聖なる教會に與え給え、**



司祭）（黙誦：主よ、爾が眞實の言を正しく傳うる正教者の凡の主教品を記憶せよ、主よ、爾が慈憐の多きに因りて、我不當の者をも記憶し、我に凡そ自由による自由によらざる罪過を赦し給え、我が諸罪に因りて、爾が聖神の恩寵の奠えたる祭品に臨むを遏むる勿れ、主よ、司祭品、ハリストスに因る輔祭品、及び悉くの神品を記憶し、我等爾の聖なる祭壇に環り立つ者の中、一をも羞を承けしむる勿れ、主よ、爾の仁慈を以て我等を顧み、爾の豐なる恩惠を以て我等に現れ、順和にして利益を爲す氣候を我等に賜い、地の豐作を爲す甘雨を賜い、爾の温澤を以て年に冠らし、爾が聖神の力を以て諸教會の分岐を治め、異邦民の驕暴を鎮め、諸異端の紛起を速に壞り給え、我が神よ、我等衆人を爾の國に入れて、光の子晝の子と顯わし、爾の平安と爾の愛とを我等に賜え、蓋爾は萬事を以て我等に予えり、）

司祭）**並に我等に、口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至嚴の名を**

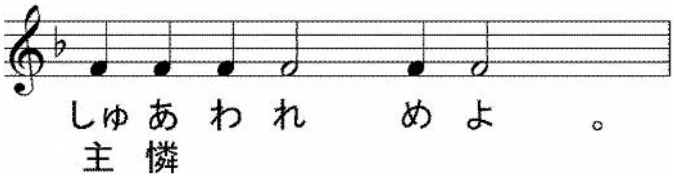
讚榮讚頌するを賜え、今も何時も世世に、



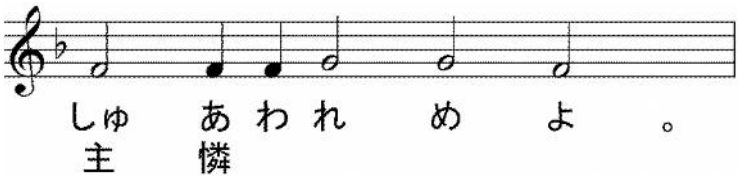
司祭）願くは大なる神、我が救主イイススハリストスの憐は、爾衆人と偕に在らんことを、

【 増聯禱 】

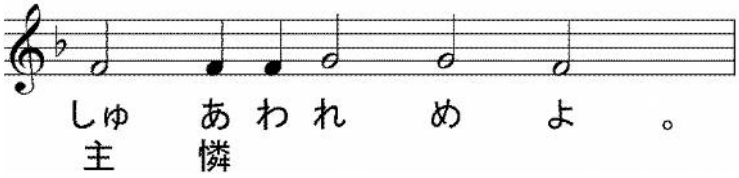
司祭）我等諸聖人を記憶して、復又安和にして主に禱らん、



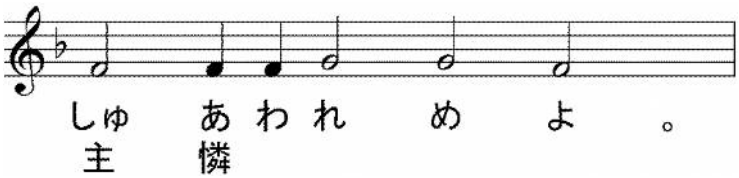
司祭）已に獻ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の爲に主に禱らん、



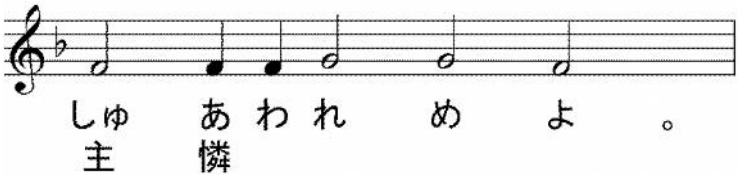
司祭）人を愛する我が神が、之を其聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報いて、神妙の恩寵と聖神の賜とを降すが爲に禱らん、



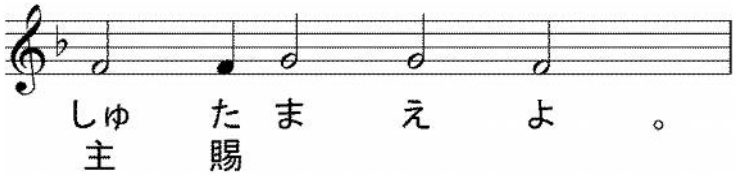
司祭）我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



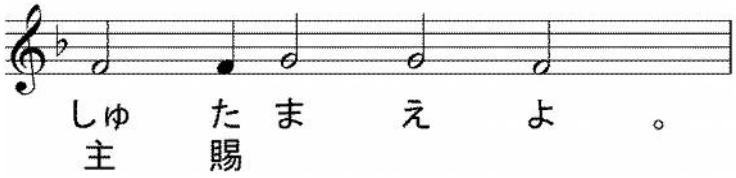
司祭）神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



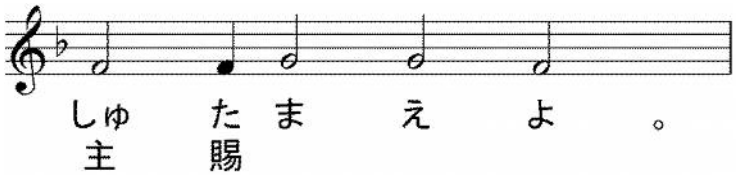
司祭）此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを主に求む、



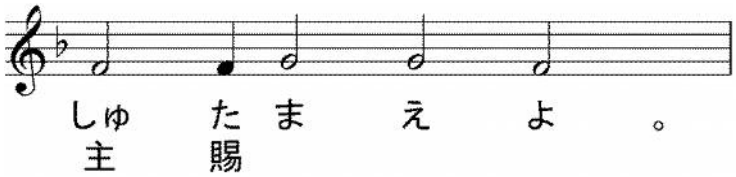
司祭）平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜わんことを主に求む



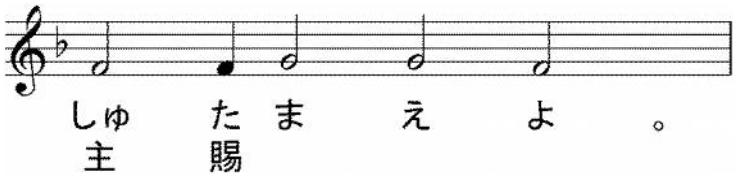
司祭）我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、



司祭）我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜わんことを主に求む、

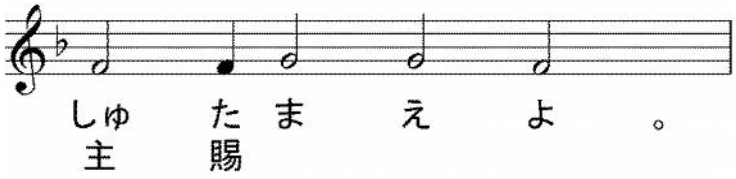


司祭）我等の生命の餘日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、



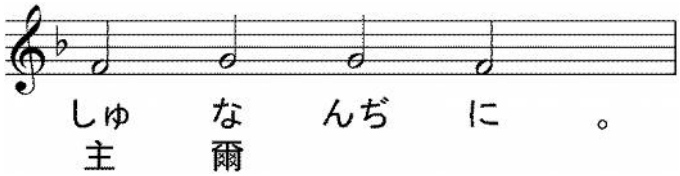
司祭）我等の生命の終がハリスティアニンに適い、疾なく、耻なく、平安なること、及び

ハリストスの畏るべき審判に於て宜しき對をなすを賜わんことを求む、



司祭）信の同一と聖神の體合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并

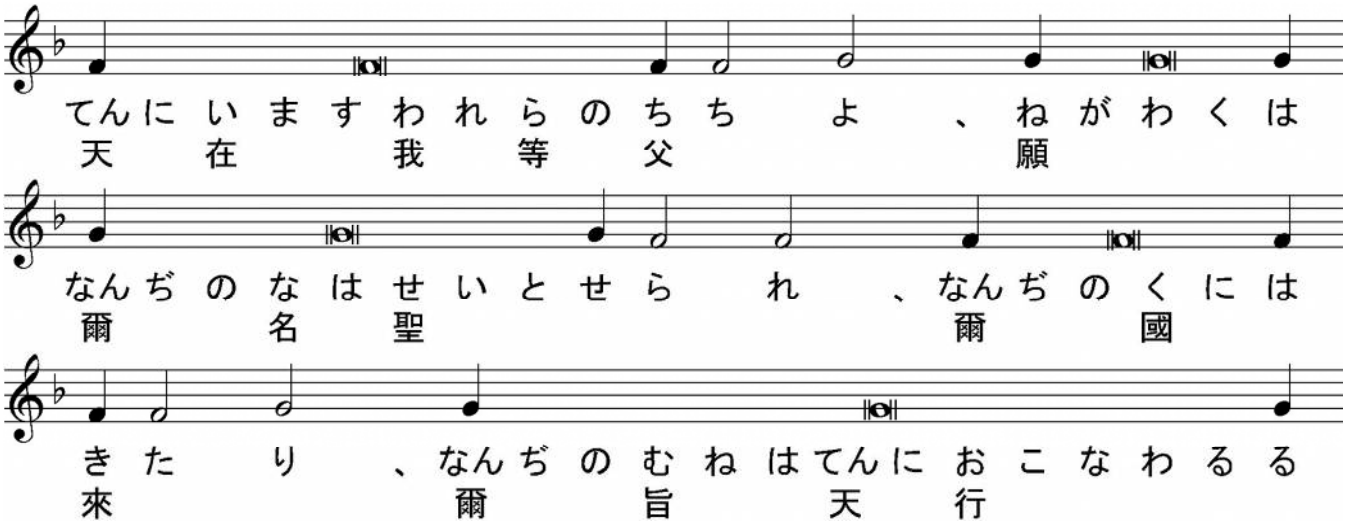
に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

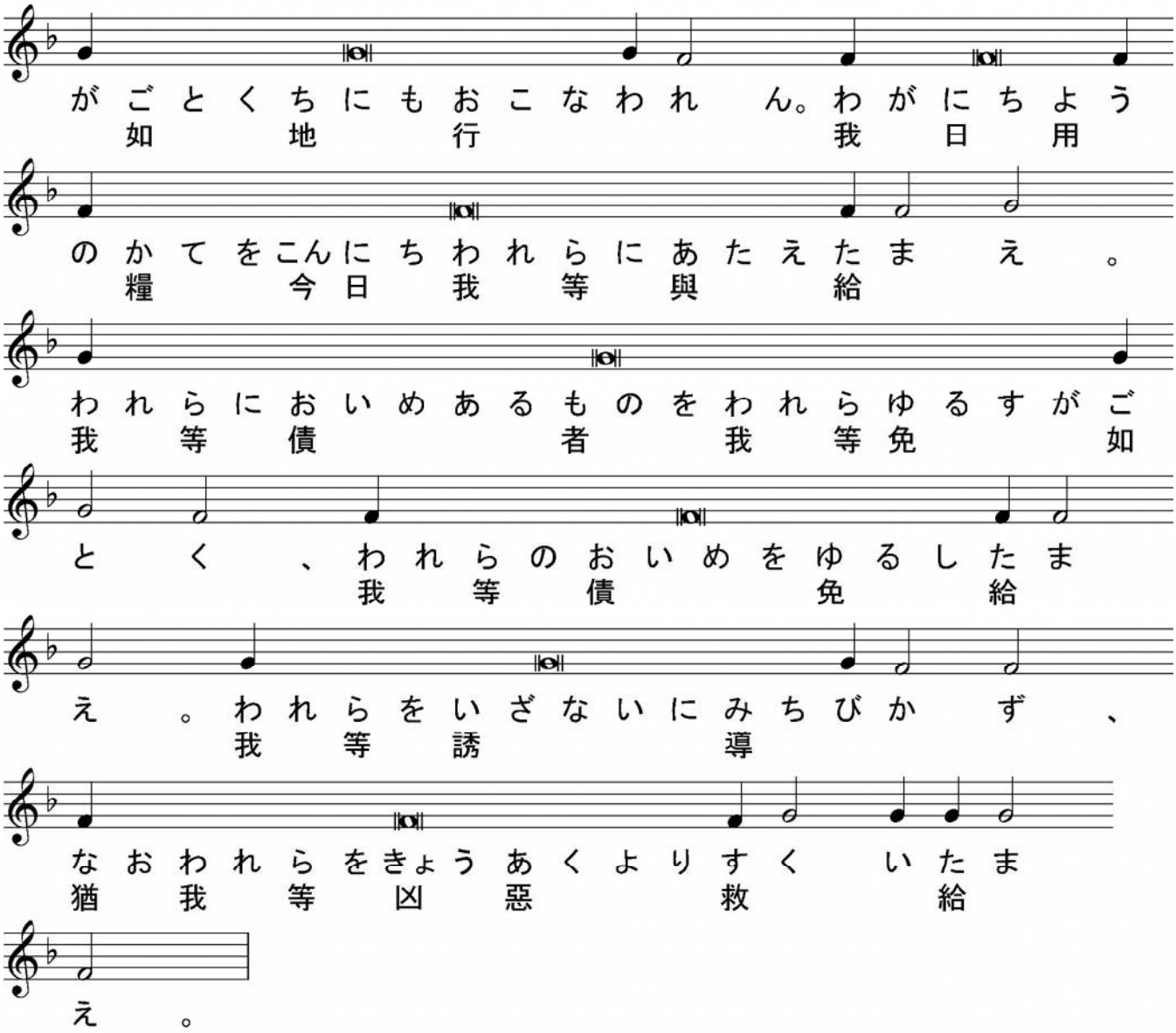


司祭)（ 默誦：我が神救の神よ、爾が已に我等に賜い、今も賜う所の諸恩の爲に、當然に爾に感謝するを我等に訓え給え、我が神、此の獻物を享けし主よ、爾我等を靈體の諸の汚より淨め、爾を畏るる心を以て聖事を行うを敎え給え、願くは我が良心の淨き證を以て爾が聖品の分を領けて、爾がハリストスの聖體血に體合し、並に當然に之を領くるに藉りて、ハリストスが我等の心に居るを得、及び爾が聖神の堂とならん、嗚呼我が神よ、我等の中一人をも、此の爾の畏るべき天上の機密の前に罪を獲せしむる勿く、又宜しきに合わずして之を領くるに依りて、靈體の病むを致さしむる勿れ、乃我等が呼吸の絶えんとするに至るまで當然に爾が聖品を領くるを以て永生の引導となし、爾がハリストスの畏るべき審判の時に善く容れらるる對となすを得せしめ給え、我等も古世より爾の喜を爲しし諸聖人と共に、主よ、爾を愛する者の爲に備うる所の爾が永遠の福樂に與る者となるが爲なり、 ）

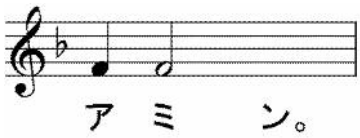
【 天主經 】

司祭) 主宰よ、我等に勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神父を籲びて言うを賜え、

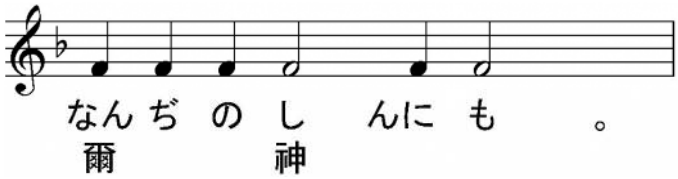




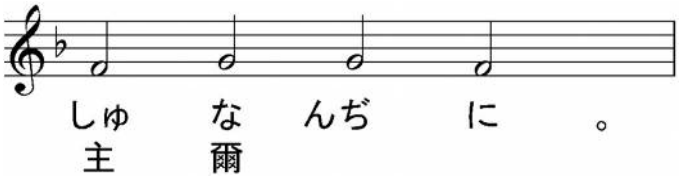
司祭） 蓋 國と權 能と光 榮は 爾 父と子と聖 神に歸す、今も何時も世世に、



司祭） 衆 人に平 安、

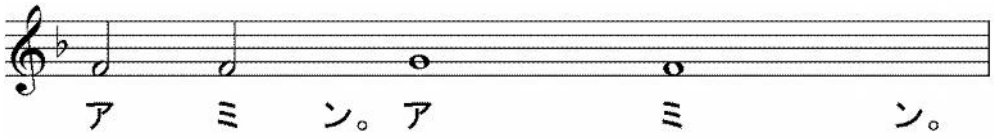


司祭） 爾 等の 首 を主に屈めよ、



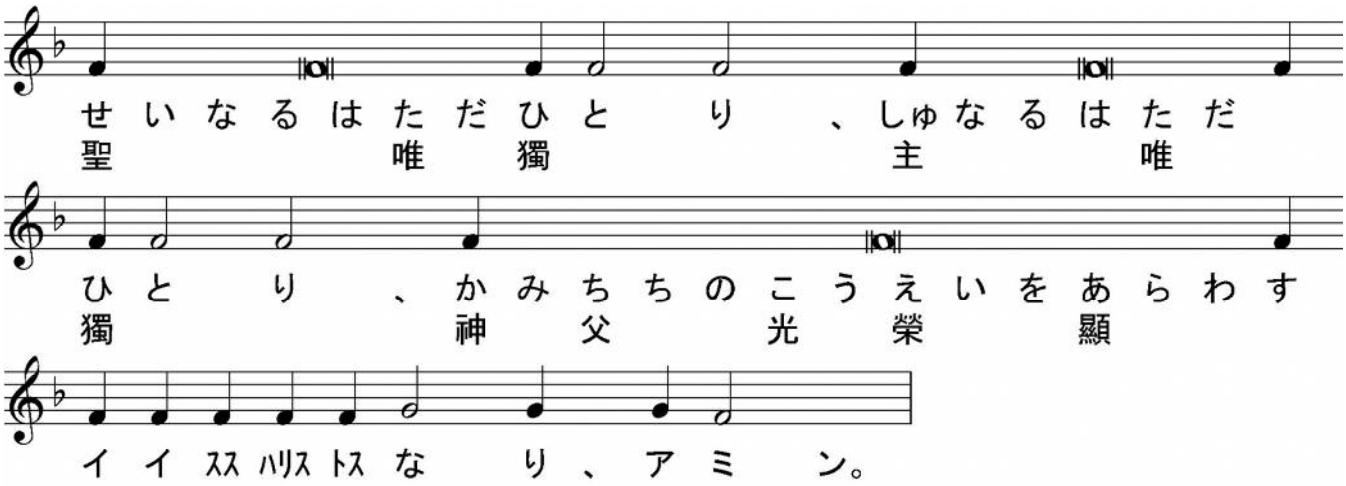
司祭）（　黙誦：主宰・主・慈憐の父、凡の撫恤の神よ、其首を屈めし者に福を降し、之を成聖し、之を保護し、之を堅固にし、之を健立し、之を凡の惡事より離して凡の善事に合せ、並に之に定罪なく、此の爾が至淨なる生命を施す機密を領けしめて、罪の赦、聖神の體合を得せしめ給え、　）

司祭）**爾が獨生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に**



司祭）（　黙誦：主イイススハリストス我等の神よ、爾の聖なる住所と爾が國の光榮の寶座より眷み給え、上には父と偕に坐し、此には見えずして我等と偕に居る者よ、來りて我等を聖にし、爾の權能の手を以て、爾が至淨の體と至尊の血とを我等に授け、又我等を以て衆人に授け給え、　）

司祭）**謹みて聽くべし、聖なる物は聖なる人に、**



司祭）（　黙誦：神の羔は剖かれ分たる、彼は剖かれて分離せず、恒に食われて永く盡きず、乃領くる者を聖にす、　）

※信徒領聖まで、聖歌指揮者の指示に随って歌うこと。

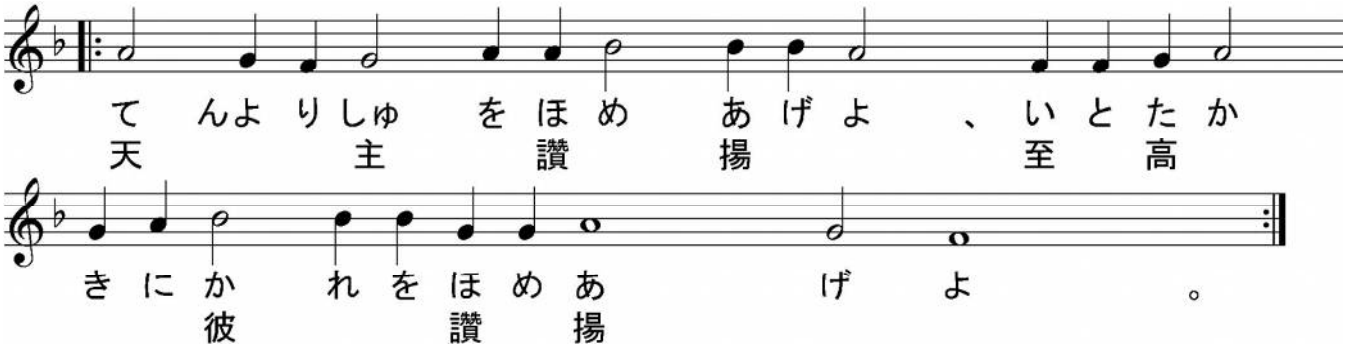
（奉事規程の指定は【　主日領聖詞　】、すなわち第１４８聖詠の第一節を繰り返し歌い、間に２節以

下をアンティフォン形式で歌う、若しくは誦経する。本来は神品領聖と信徒領聖に区別はないので、同じ領聖詞を使う。

日本正教会では神品領聖時に【　主日領聖詞　】に代えて、早課イルモス（その週の調、または生神女のカタワシヤ等）、スティヒラ等を歌うことが多いが、これに奉事規程上の根拠はない。

歌えるものがない場合は、聖詠経を誦経しても良い。　　）

【　主日領聖詞（キノニク）　第 148 聖詠　】



句）其悉くの天使よ、彼を讃め揚げよ、其悉くの軍よ、彼を讃め揚げよ。

句）日と月よ、彼を讃め揚げよ、悉くの光る星よ、彼を讃め揚げよ。

句）諸天の天と天より上なる水よ、彼を讃め揚げよ。

句）主の名を讃め揚ぐべし、蓋彼言いたれば、即成り、命じたれば、即造られたり、彼は之を立てて世世に至らしめ、則を與えて之を踰えざらしめん。

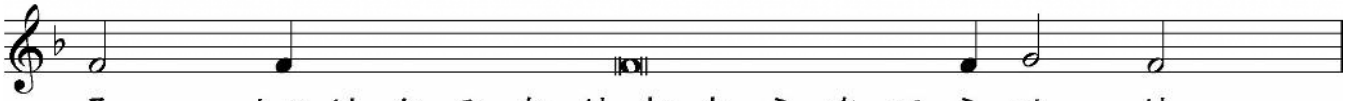
句）地より主を讃め揚げよ、大魚と悉くの淵、火と霰、雪と霧、主の言に従う暴風、山と悉くの陵、果の樹と悉くの栢香木、野獣と諸の家畜、匍う物と飛ぶ鳥、地の諸王と萬民、牧伯と地の諸有司、少年と處女、翁と童は、主の名を讃め揚ぐべし、蓋惟其名は高く擧げられ、其光榮は天地に徧し。

句）彼は其民の角を高くし、其諸聖人、イズライリの諸子、彼に親しき民の榮を高くせり。

歌えるものがない場合は、聖詠経を誦経しても良い。　　）

【　信徒領聖　】

司祭）神を畏るる心と信とを以て近づき來れ、



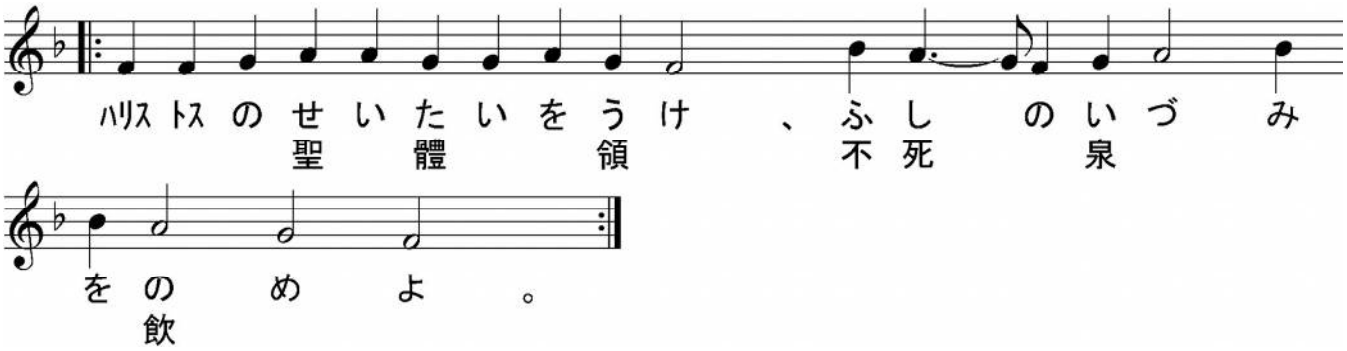
る　、しゅはかみなりわれらをてらせ　り　。
主　神　我　等　照

全員）主よ我信じ、且つ承け認めて、爾を實にハリストス生活の神の子、罪人を救うが爲に世に來りし者となす、衆罪人の中我第一なり、又信ず、此れは乃　爾が至淨の體、此れは乃　爾が至尊の血なりと、故に爾に祈る、我を憐み、我が自由と自由ならずして、言と行にて、知ると知らずして、犯しし諸罪を赦し給え、並に我に定罪なく、爾が至淨なる機密を領けて、罪の赦と永生とを得るを致させ給え、アミン。

神の子よ、今我を爾が機密の筵に與る者として容れ給え、蓋我爾の仇に機密を告げざらん、また爾にイゥダの如き接吻を爲さざらん、乃右盗の如く爾を承け認めて曰う、主よ、爾の國に於て我を記憶せよと。主よ、祈る爾の聖なる機密を領くるは、我が爲に審案或は定罪とならず、すなわち靈體の醫とならんことを、アミン。

【　（大パスハ）領聖詞（キノニク）　】

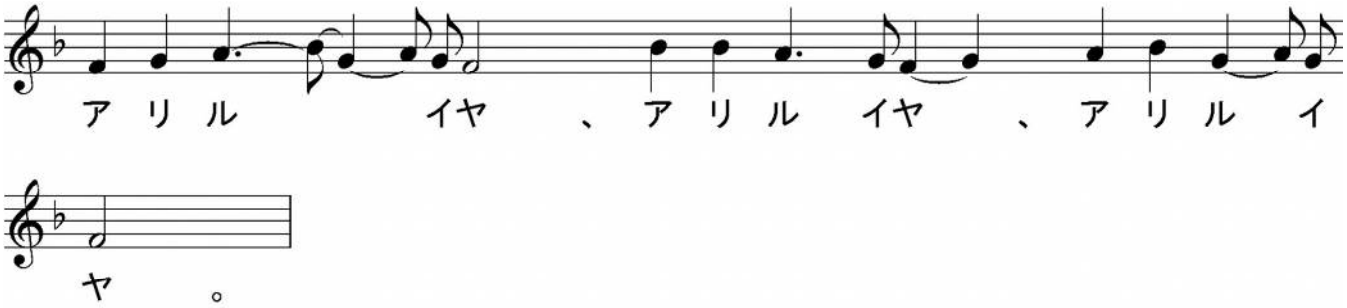
※　全員が領聖し畢り、元の位置に戻るまで繰り返す。



ハリストスのせいたいをうけ　、ふしのいづみ
聖　體　領　不死　泉

をのめよ　。
飲

※　全員が元の位置に戻って歌う準備ができてから「アリルイヤ」を歌う。



アリル　イヤ　、アリル　イヤ　、アリル　イ

ヤ　。

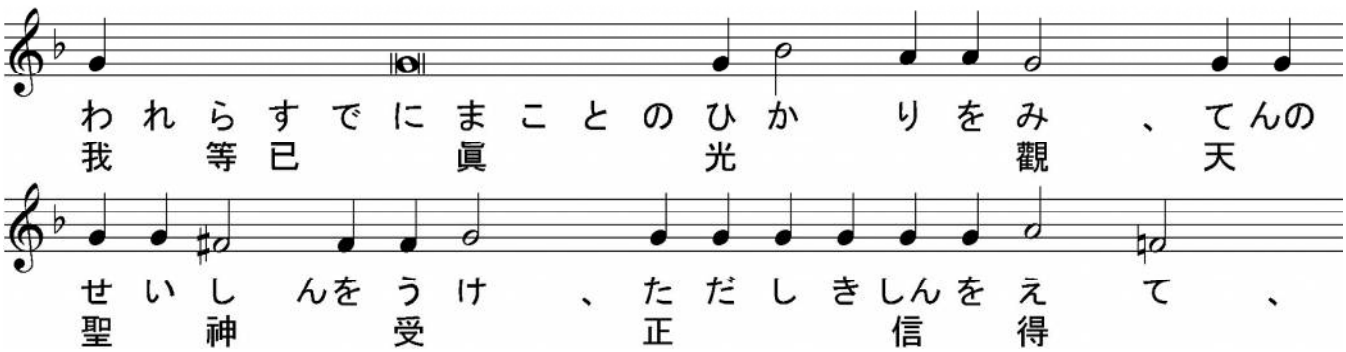
司祭）（ 黙誦：ハリストスの復活を見て、聖なる主イイスス・獨罪なき者を拝むべし、ハリストスよ、我等爾の十字架を拝み、爾の聖なる復活を歌い讃む、爾は我等の神なればなり、爾の外他の神を知らず、唯爾の名を稱う、信者よ、皆來りてハリストスの聖なる復活を拝むべし、十字架にて喜は全世界に臨めばなり、我等恒に主を讃め揚げて、其復活を崇め歌わん、主は十字架に釘うたるるを忍びて、死を以て死を亡ししによる、

新なるイェルサリムよ、光り光れよ、主の光榮爾に輝けばなり、シオンよ、今祝いて樂めよ、爾も潔き生神女よ、爾が生みし主の復活を歡び給え、

嗚呼大にして至聖なるパスハ・ハリストスよ、嗚呼智慧と神の言と能力よ、爾が國の暮れざる日に於て、我等に猶親く爾を領けさせ給え

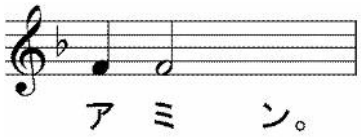
主よ、爾が至尊の血を以て、爾が諸聖人の祈禱に因りて、此に記憶せられし者の諸罪を滌い給え、主我が神よ、我等爾が至淨にして不死なる天上の聖機密、爾が我等の靈體の施恩・成聖・醫療として賜いし所の者を領くるに因りて爾に感謝す、萬有の主宰よ、爾親ら我等が爾のハリストスの聖體血を領くるを以て、其耻を得ざる信、僞なき愛、睿智の增益、靈體の醫療、諸敵の驅逐、爾が誡の順守、並に爾がハリストスの畏るべき審判に於て善く容れらるる對となるを致させ給え、 ）

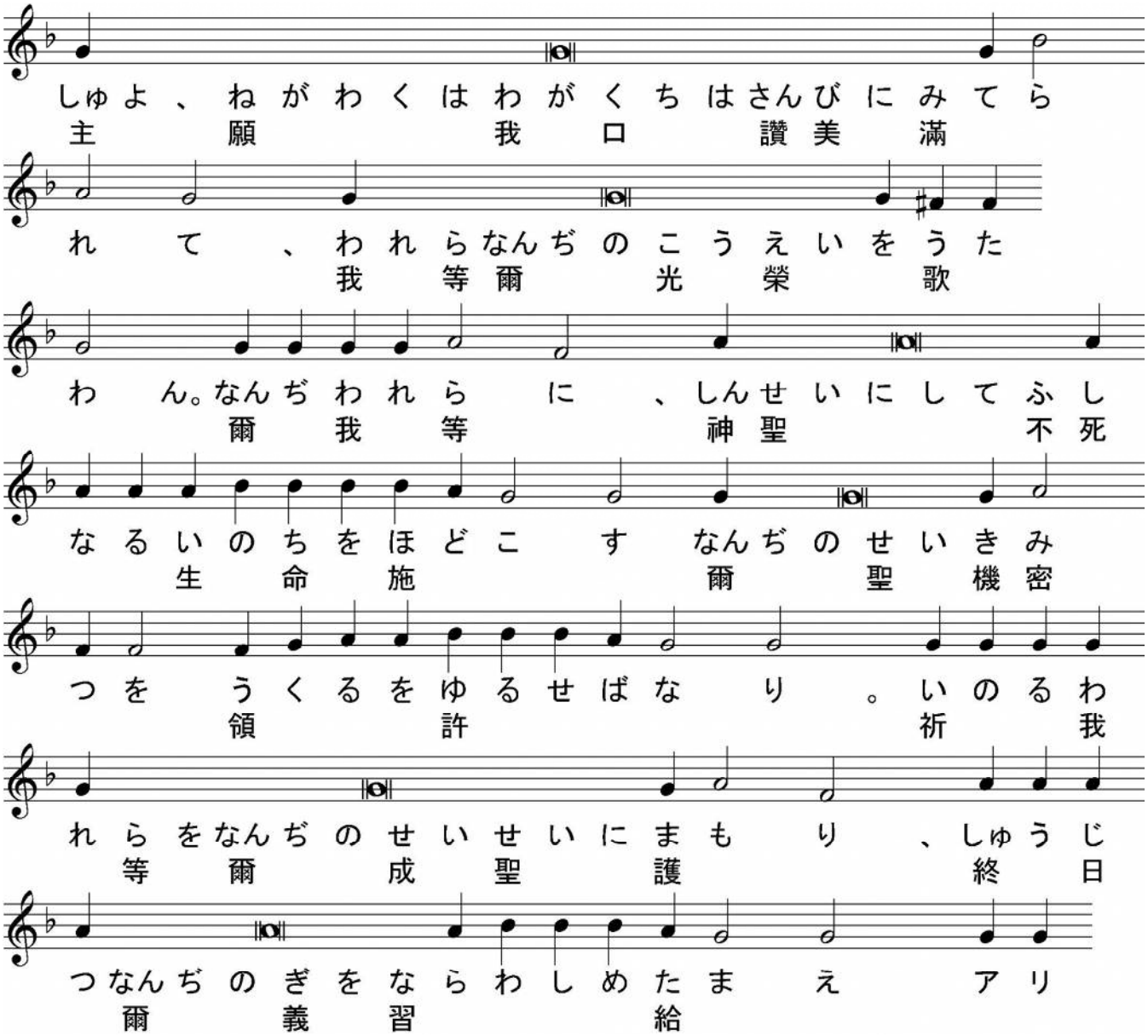
司祭）**神よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降せ、**

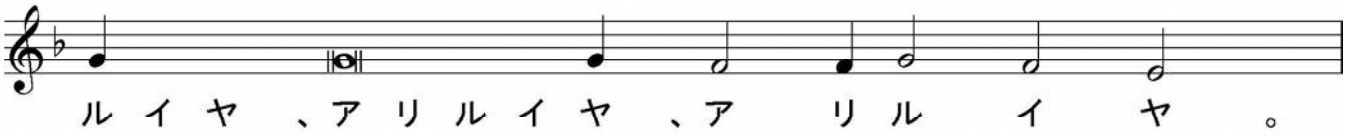


司祭)（ 黙誦：神よ、願くは爾は諸天の上に擧げられ、爾の光榮は全地を蔽わん、我等の神は恒に崇め讃めらる、 ）

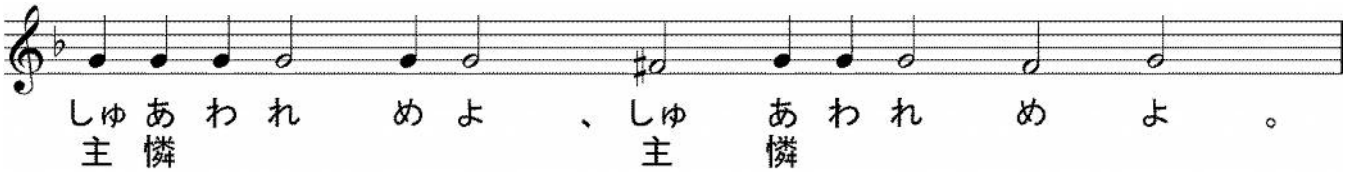
司祭) 今も何時も世世に、





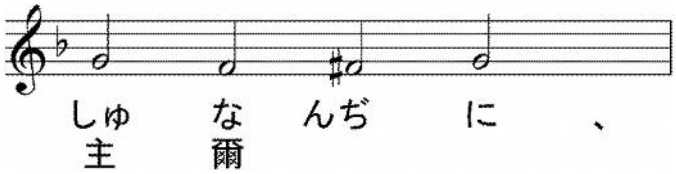


司祭）謹みて立て、神聖・至浄・不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

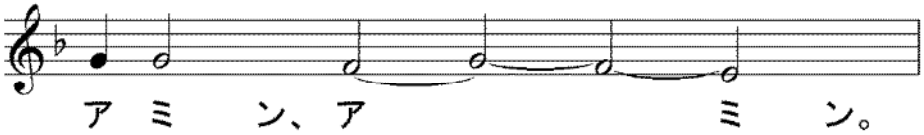


司祭）神よ、爾の恩寵を以て我等を佑け救い憐み護れよ、

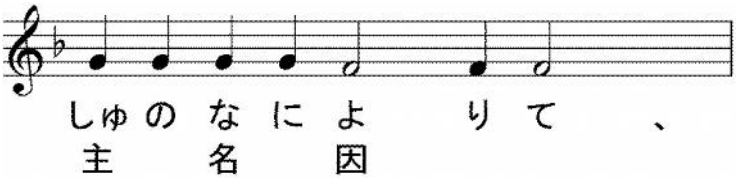
司祭）此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



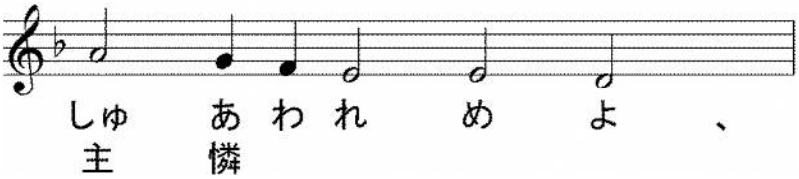
司祭）蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、



司祭）平安にして出づべし、

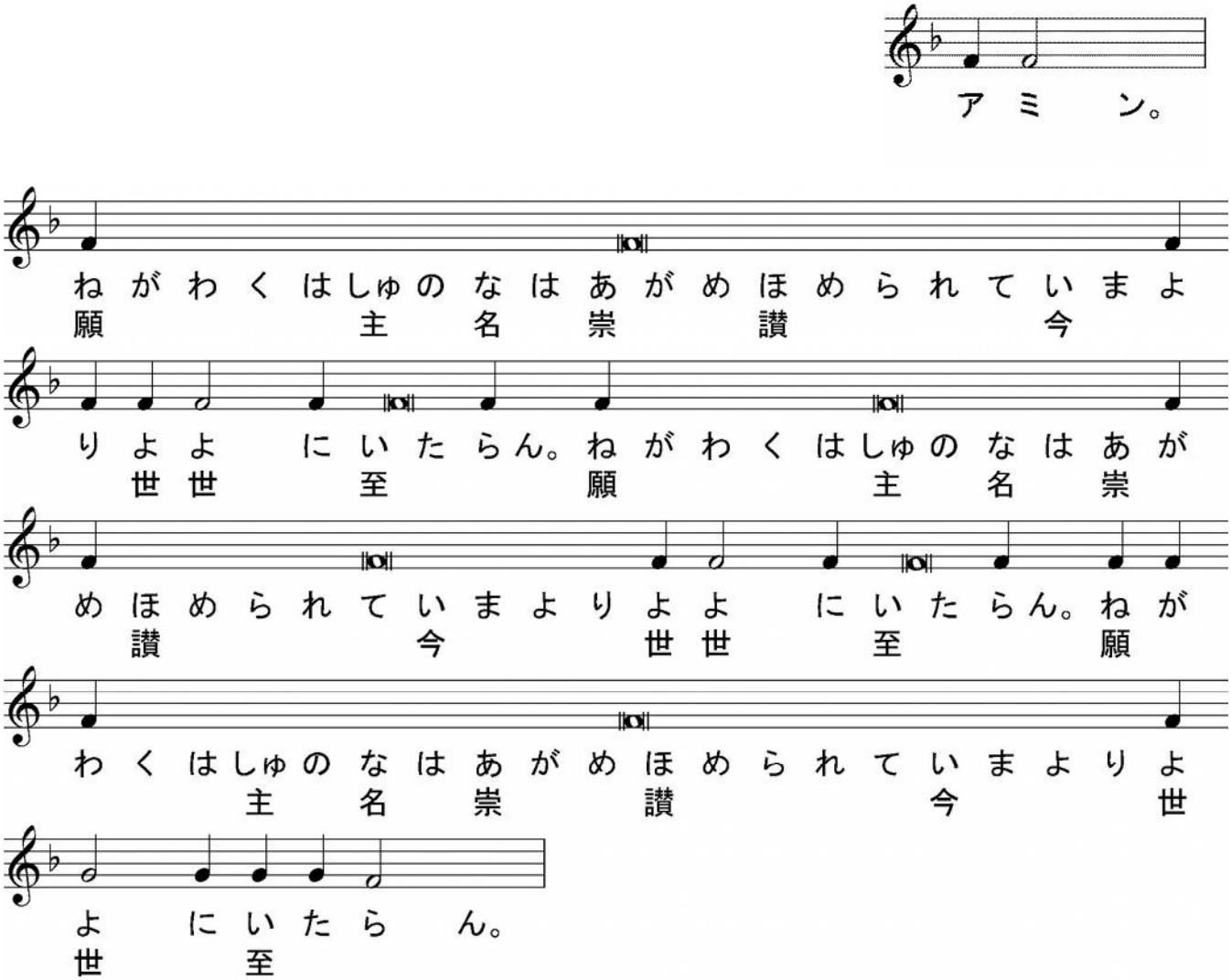


司祭）主に禱らん、



司祭）爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主よ、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教會の充滿を守り、爾が堂の美なるを

愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺す勿れ、爾の世界と爾の諸教會と諸司祭と、我が國の天皇及び國を司る者及び爾の衆人に平安を賜え、蓋凡の善なる施、凡の全備なる賜は、上より、爾光明の父より降るなり、我等光榮・感謝・伏拝を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

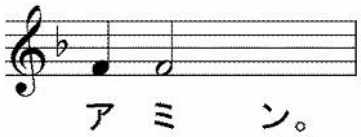


誦經）我何れの時にも主を讃め揚げん、彼を讃むるは恒に我が口に在り、我が靈は主を以て誇らん、温柔なる者は聞きて樂しまん。我と偕に主を尊め、偕に彼の名を崇め讃めん。我嘗て主を尋ねしに、彼は我に聆き納れて、我が都ての危きより我を免れしめ給えり。目を擧げて彼を仰ぐ者は照されたり、彼等の面は愧を受けざらん。此の貧しき者呼びしに、主は聆き納れて、之を其悉くの艱難より救えり。主の使は主を畏るる者を環り衛りて、彼等を援く。味えよ、主の如何に仁慈なるを見ん、彼を恃む人

は福なり。凡そ主の聖人よ、主を畏れよ、蓋彼を畏るる者は乏しきことなし。少き獅子は乏しくして餓え、唯主を尋ぬる者は何の幸福にも缺くるなし。

司祭）（ 黙誦：親ら法律と諸預言者との成満にして、父の定制を悉く成満せしハリストス我が神よ、常に我等の心を喜と樂とに成満せしめ給え、今も何時も世世に、 ）

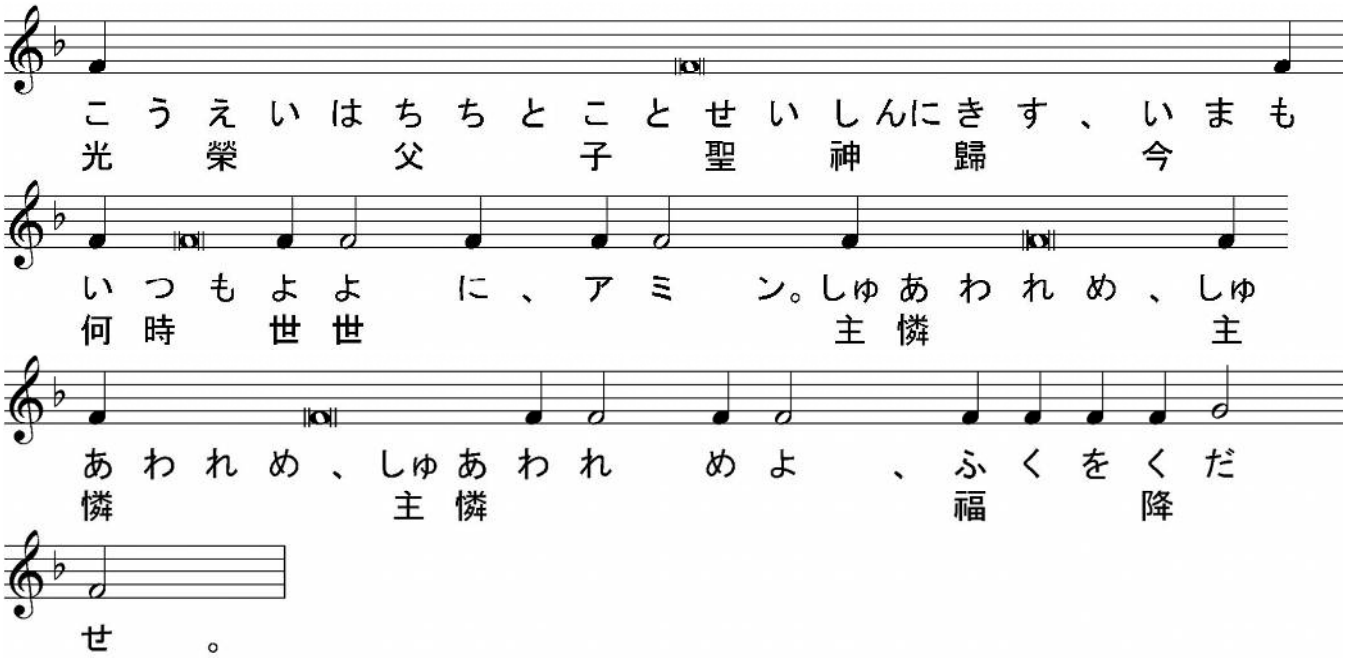
司祭） 願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、



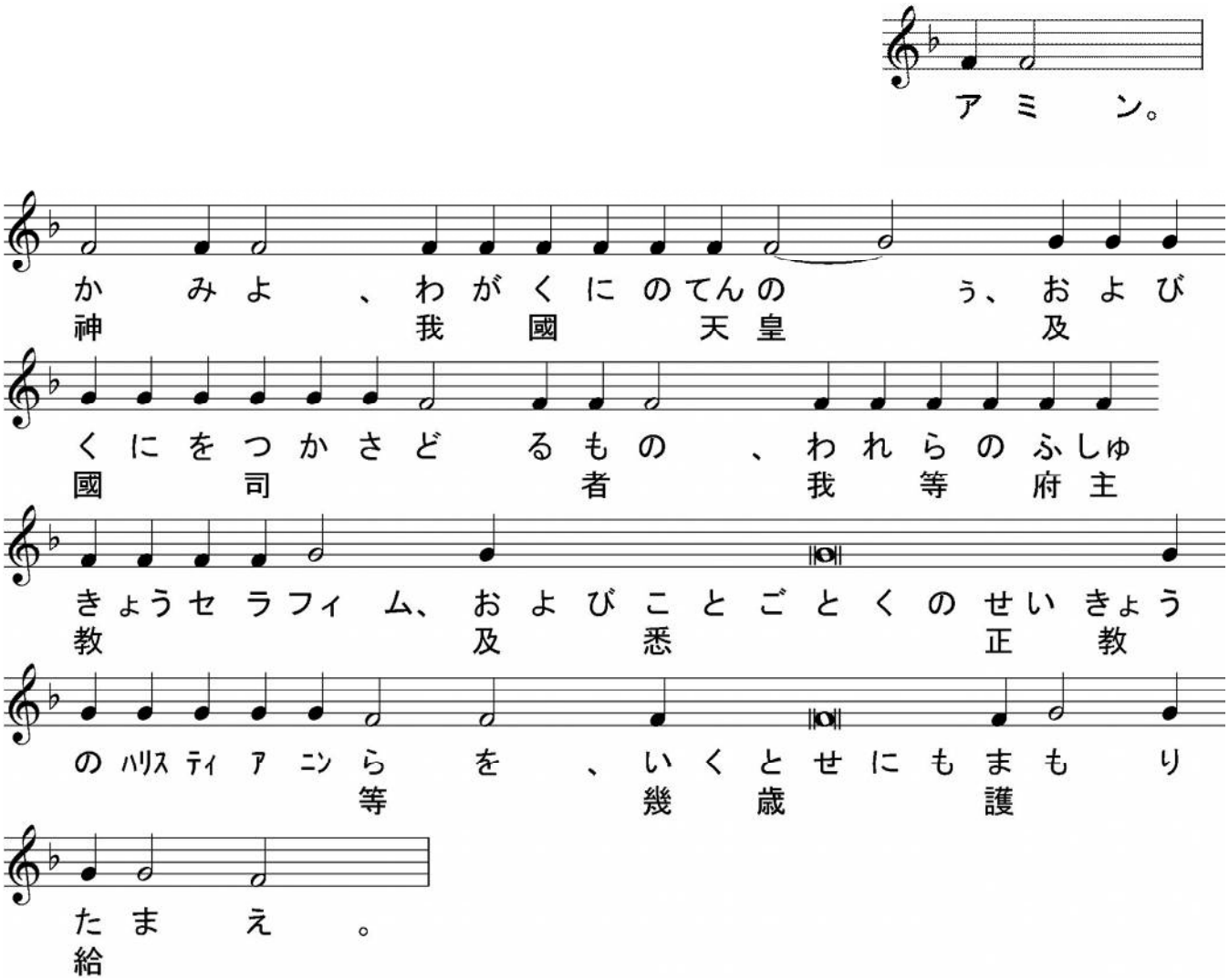
※ もし永眠者記憶を続けて行う場合はP38【 永眠者の爲の熱衷祈祷 】に飛ぶ。

【 通常の終結 】

司祭） ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

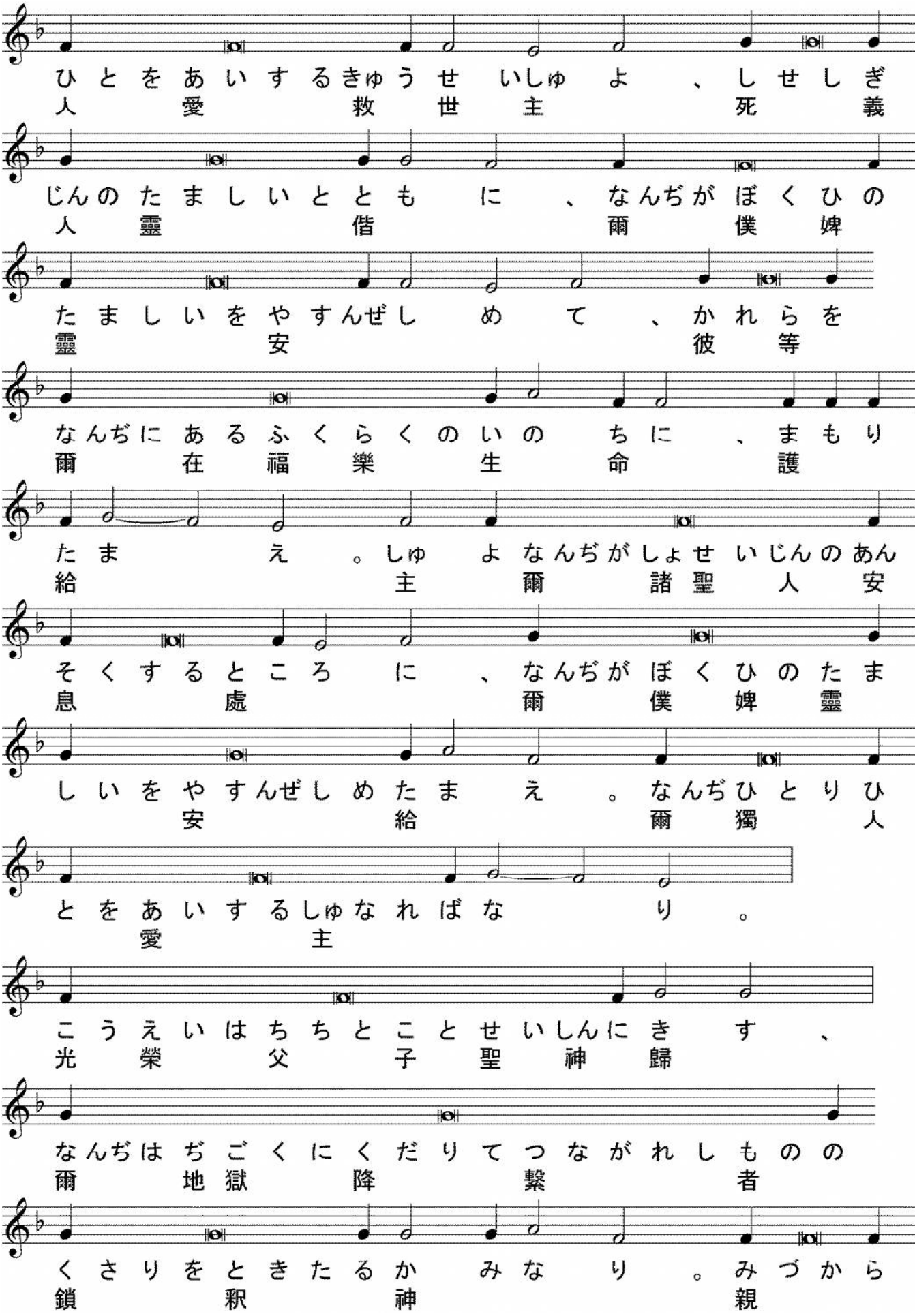


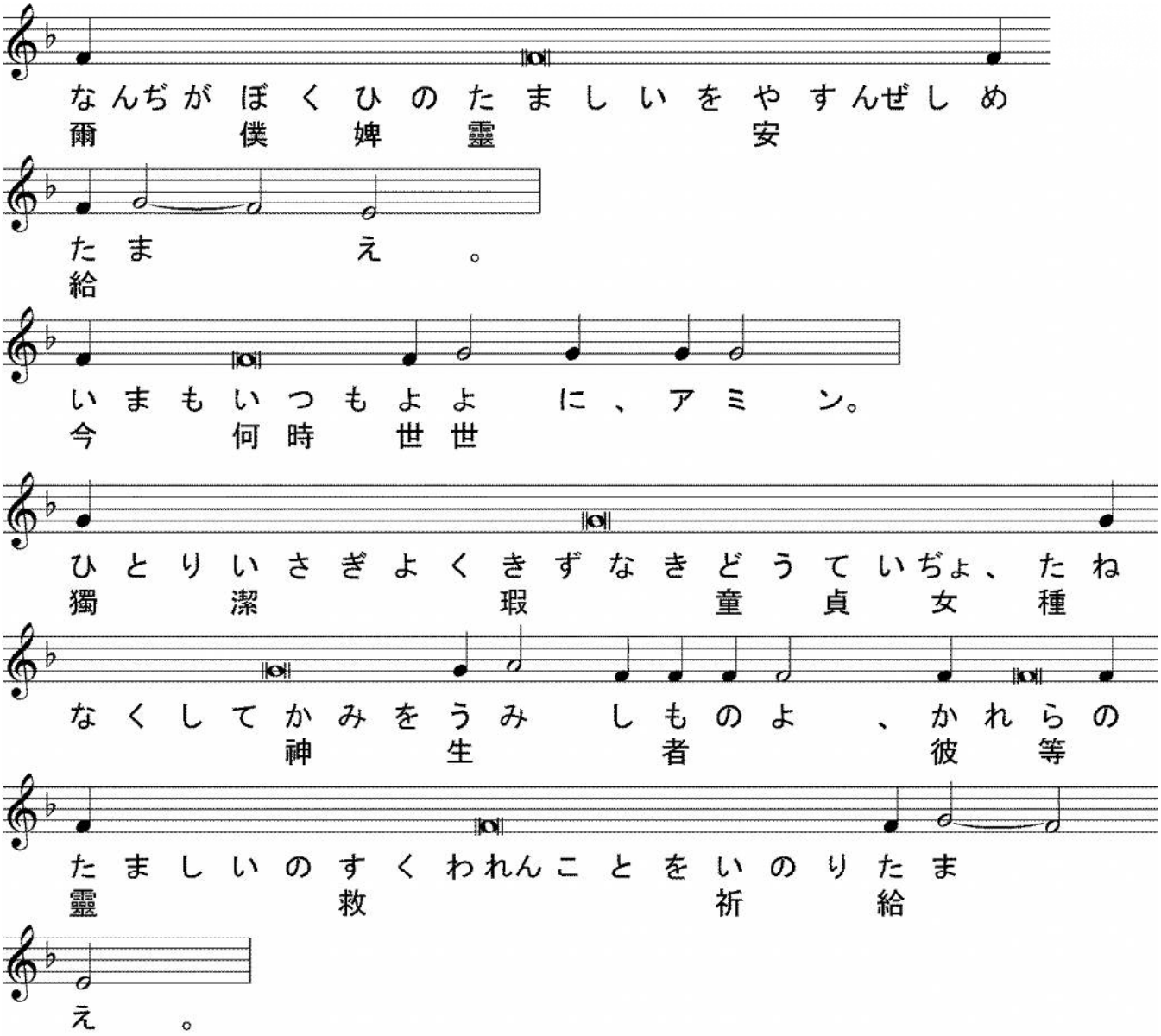
司祭） 死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父カッパドキヤのケサリヤの大主教聖大ヴァシリイ、克肖捧神なる我諸神父、（ 某 ）及び諸聖人の祈禱に因て我等を憐み救わん。善にして人を愛する主なればなり、



〈　聖体礼儀終了　十字架接吻　〉

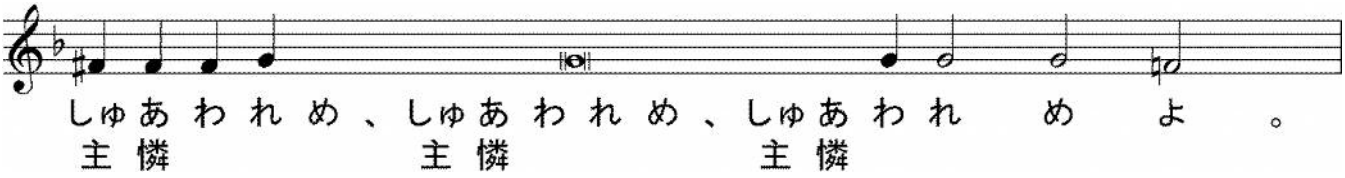
【　永眠者の爲の熱衷祈祷（リティヤ）　】



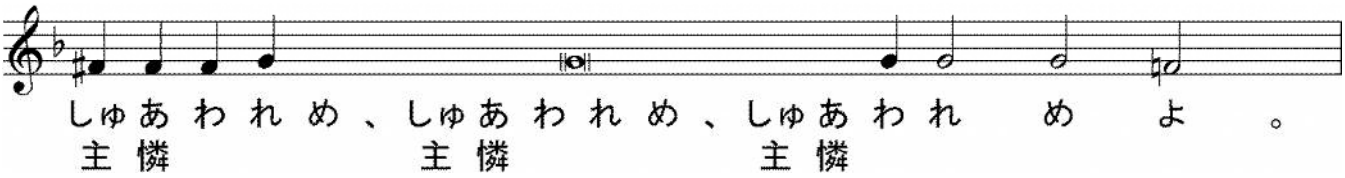


【 重聯禱 】

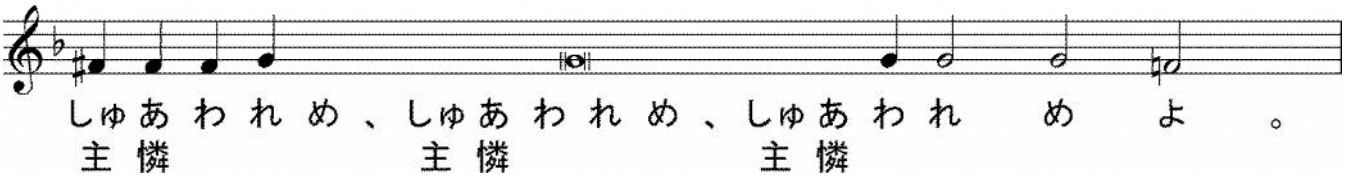
司祭）神よ、爾の大なる憐に因て我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



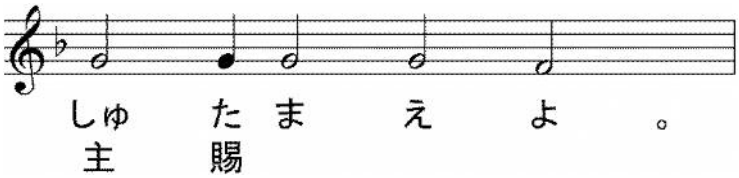
司祭）又寢りし神の僕婢（ 某 ）の靈の安息の爲、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんが爲に禱る、



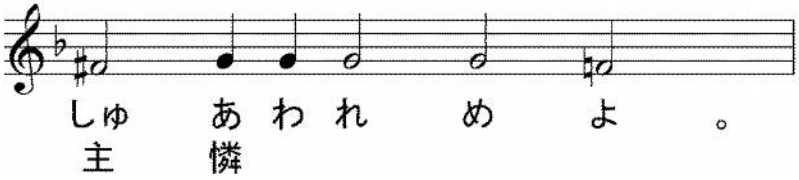
司祭）主神が彼等の靈を諸義人の安息する處に入れ給わんことを禱る、



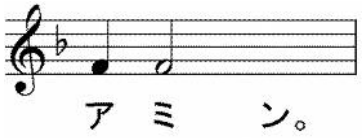
司祭）彼等に神の憐と天國と諸罪の赦とを賜わんことを、ハリストス我死せざる王及び神に願う、



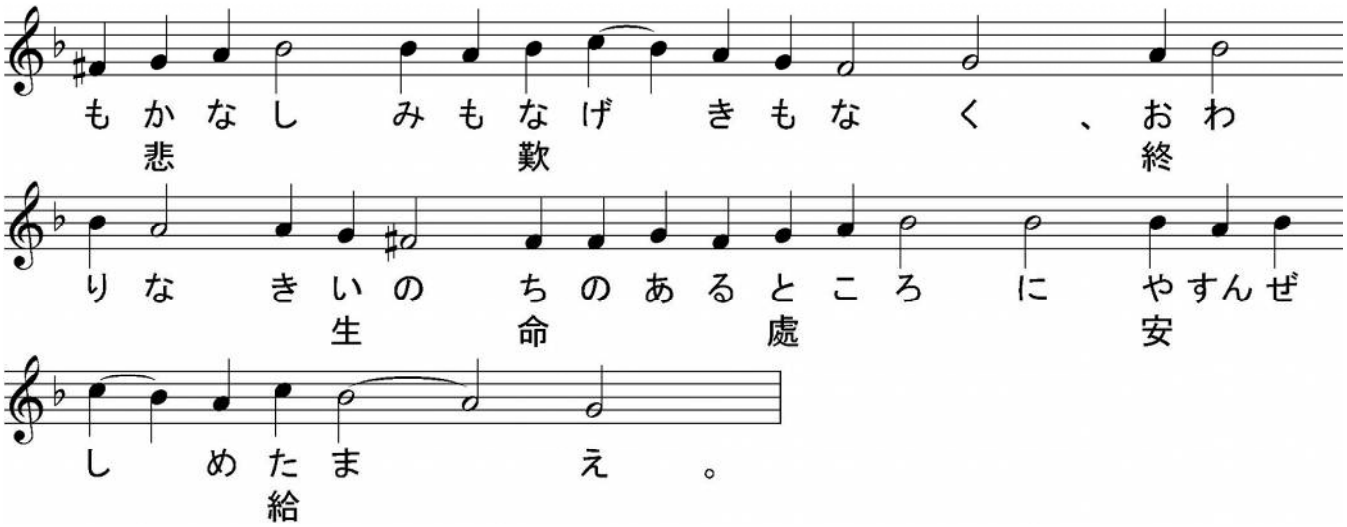
司祭）主に禱らん、



司祭）諸の靈神と諸の肉體との神、死を亡ぼし惡魔を虚くし、爾の世界に生命を賜いし主よ、爾親ら寢りし爾の僕婢（　某　）の靈を光る處、茂き草場、平安の處、病と悲と歎との遠ざかる處に安息せしめ、善にして人を愛する神なるに因て彼等が或は言、或は行、或は思にて犯しし悉くの罪を赦し給え。蓋人一も生きて罪を行わざる者なし、唯爾は罪なし、爾の義は永遠の義、爾の言は眞實なり。蓋ハリストス我等の神よ、爾は寢りし爾の僕婢（　某　）の復活と生命と安息なり。我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、

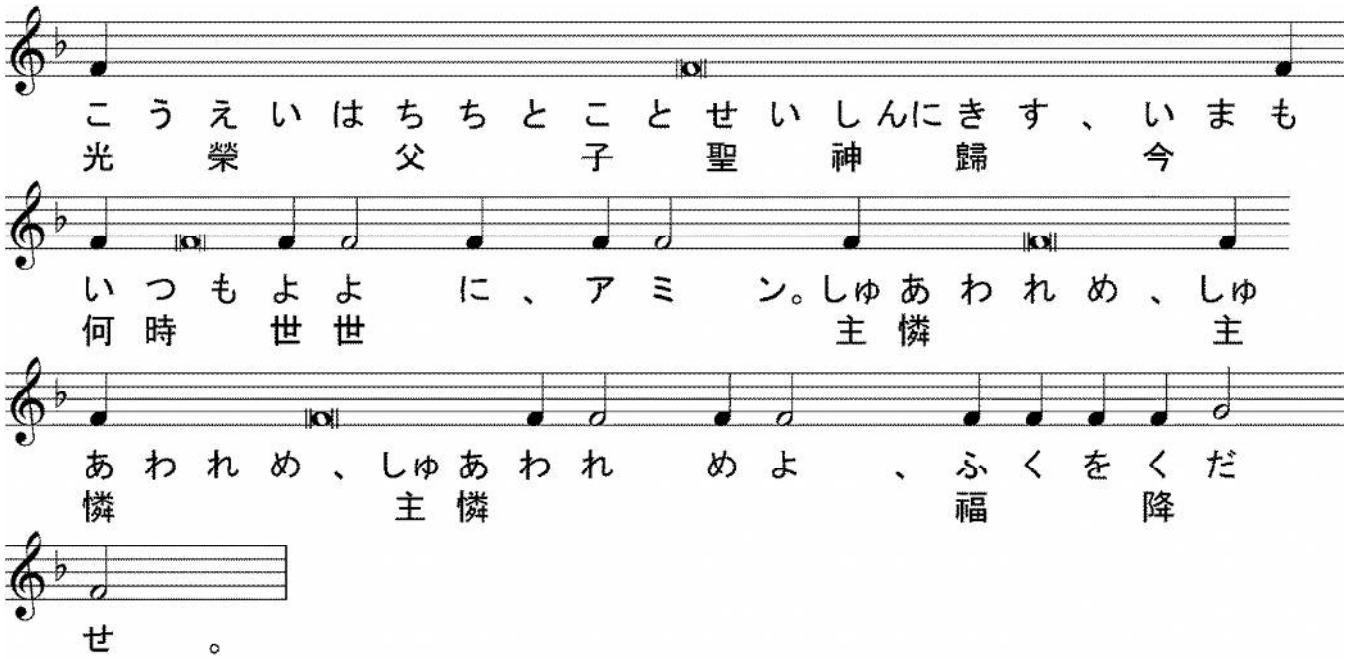


【　永眠者の爲の小讃詞　】

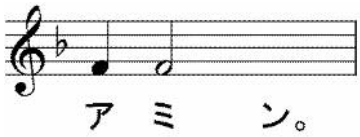


【　終結　】

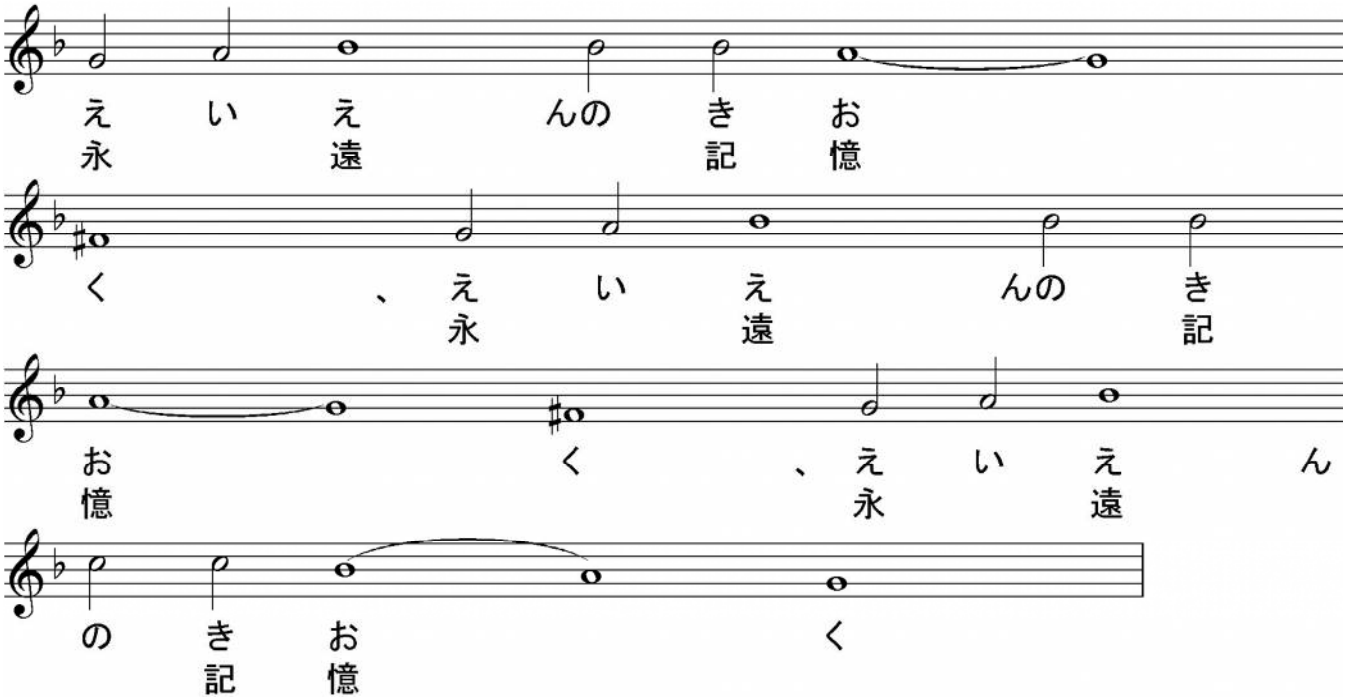
司祭）ハリストス神我等の恃よ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、



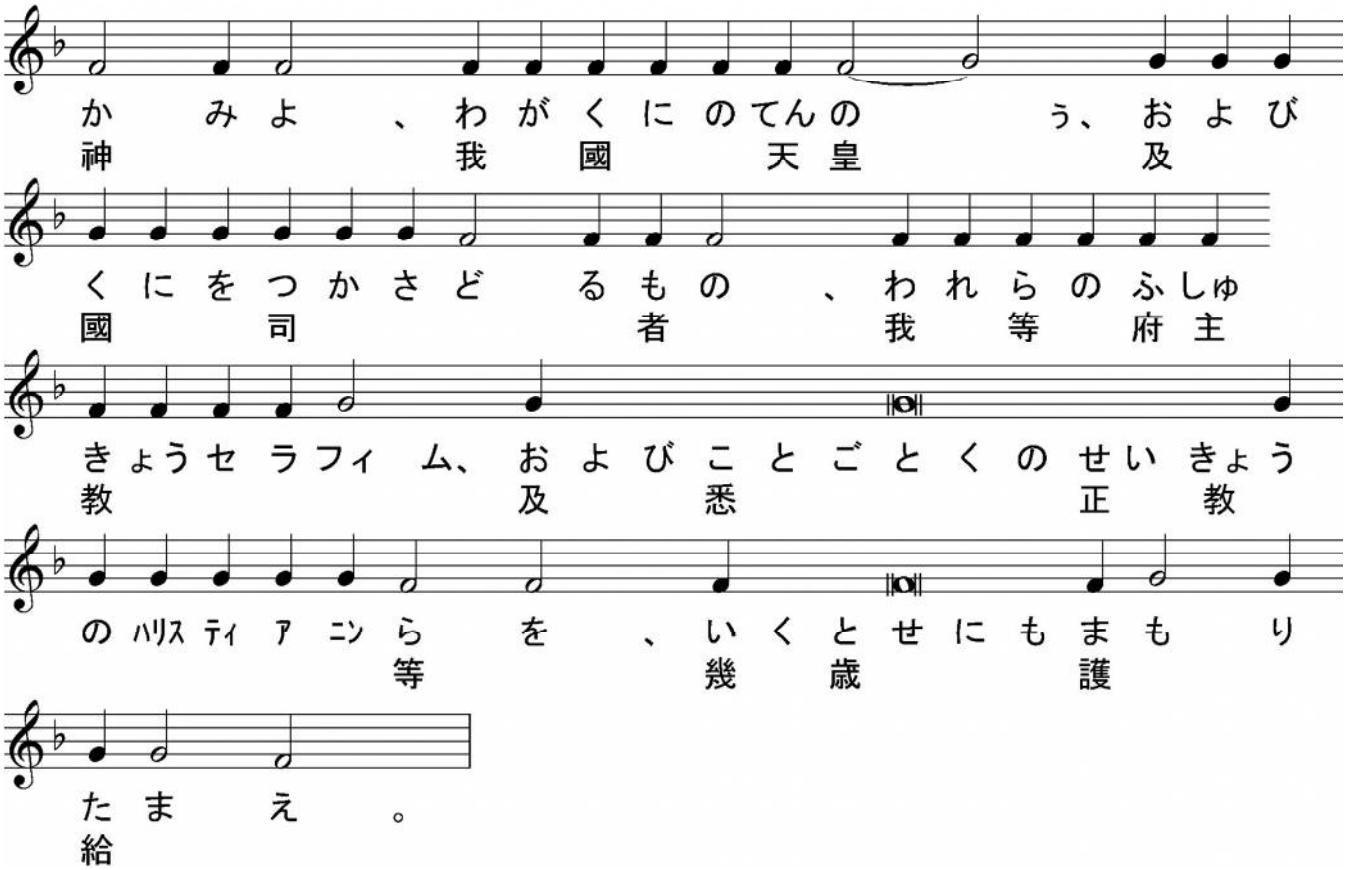
司祭）死より復活し、生ける者と死せし者を其全能の手に保ち給うハリストス我等の眞の神は、其至淨なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、克肖捧神なる我諸神父、（　某　）及び諸聖人の祈禱に因て、寝りし僕婢（　某　）の靈を諸義人の住所に入れ、アヴラアムの懷に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん。善にして人を愛する主なればなり、



司祭) 主よ、爾の僕婢(某)の福なる寢に永遠の安息を與え、彼等に永遠の記憶を爲し給え、



【 萬壽詞 】



(祈祷終了、十字架接吻)

【 領聖感謝祝文 】

神や光榮は爾に歸す、神や光榮は爾に歸す、神や光榮は爾に歸す。

【 第一祝文 】 主我が神や、爾我罪人を棄てずして、尚爾の聖なる機密に與る者と致させ給うを爾に感謝す、我堪えざる者に爾が至淨なる天の賜を受くるを容し給うを爾に感謝す、主宰・人を愛する主、我等の爲に死して復活し、我が靈と體とに恩を與え、之を聖にするが爲に、我等に此の恐る可くして生命を施す機密を賜いし者や、求む此の機密は、我にも靈と體とを癒し、凡の敵の害を驅り、我が心の目を明かにし、我が靈の力を平安にし、耻を得ざる信とし、僞なき愛とし、睿智を充たし、爾の誡を守らしめ、爾が神聖の恩寵を益し、爾の國を嗣がしむる者となるを得せしめ給え、我は此くの如く、是の機密にて爾の成聖に護られ、常に爾の恩寵を思い、復己が爲に生活せず、乃爾我が主宰及び恩主の爲に生活し、以て永生の望を懷き、此の世を離れて、永遠の息、彼の祝する者の絶えざる聲、及び爾が顏の言い盡されぬ美善を見る者の限りなき樂の處に至らん、蓋ハリストス我が神や、爾は爾を愛する者の眞の望と言い盡されぬ樂なり、凡そ造を受けし者は爾を世世に讃め歌う、「アミン」。

【第二祝文 聖大ワシリイの原文】 主宰ハリストス神、萬世の王、萬物の造成者や、凡そ我に賜いし所の諸善、且生命を施す至淨なる爾の機密を領けさせ給いしを爾に感謝す、又爾に祈る、善にして人を愛する主や、我を爾が庇の下に、爾が翼の蔭に護り、我に呼吸の絶えんとするに至る迄、潔き良心を以て、當然に爾の聖體聖血を領け、以て罪の赦と永生とを得るを致させ給え、蓋爾は生命の糧、成聖の泉、諸善を賜う主なり、我等爾と父と聖神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、「アミン」。

【 第三祝文 聖シメヲン「メタフラスト」の原詩 】 我が造成主、甘じて己の身を糧として我に與え、火にして不當者を焚く者や、求む我を焚く毋れ、乃吾が百體諸

節心腹に入り、吾が諸罪の棘を焚き、靈を淨め、思を聖にし、筋と骨とを固め、五官を明かにし、吾が全身を、爾を畏るる畏に釘うち、常に我を庇い、我を保ち、我を靈を害する諸の行と言とより護り、我を淨め、我を滌い、我を飾り、我を治め、我を啓き、我を照し、我が復罪の住所たらずして、獨爾が聖神の住所たるを顯し、凡の悪者凡の慾は、我聖體の入るに依りて爾の家となりし者より逃ぐること、火より逃ぐるが如くならしめ給え、我其轉達者として、諸の聖者、諸品の天使、爾の前驅、智慧なる使徒、及び爾が無玷至淨の母を爾に進む、慈憐の主我がハリストスや、彼等の祈禱を容れて、爾の役者を光の子となし給え、蓋獨至善の主や、爾は我等の靈の成聖と光明なり、我等皆神と主宰に宜しき所の如く、日日に光榮を爾に獻ず。

【第四祝文】 主イイススハリストス我等の神や、願くは爾の聖體は、我が爲に永生となり、爾の尊血は、罪の赦とならん、願くは此の感謝の祭は、我が爲に喜悦と壯健と安樂とならん、又畏る可き爾が再度の降臨の時、我罪人に、爾が光榮の右に立つを得せしめ給え、爾が至淨の母と諸聖人との祈禱に依りてなり。

【第五祝文　至聖生神女に捧ぐ】 至聖なる女宰・生神女、我が昧みたる靈の光、吾が憑恃と帷幪と避所と慰藉と歡喜や、爾が我堪えざる者に、爾の子の至淨の體至尊の血を領くる者となるを得せしめ給いしを爾に感謝す、猶祈る、眞の光を生みし者や、吾が心の靈目を明にせよ、不死の泉を生みし者や、我罪に殺されたる者を生かし給え、慈憐なる神の慈愛の母や、我を憐み、吾が心に傷感と悲痛、吾が思に謙遜、吾が虜となりし意念に呼還を賜い、我に呼吸の絶えんとするに至るまで、罪を獲ずして、至淨なる機密の成聖を受けて、靈と體との醫を得るを致し、並に我に痛悔と承認との涙を與えて、生涯爾を歌頌讃榮せしめ給え、蓋爾は世世に讃美と光榮とを滿ち被る、「アミン」。

2025年3月14日　一部改訂